

上田市文化財調査報告書第67集

HACHI MAN URA

八幡裏遺跡Ⅲ

国立長野病院看護婦宿舎建設に伴う遺跡発掘調査報告書

1998. 3

上田市・上田市教育委員会
厚生省関東信越地方医務局

上田市文化財調査報告書第67集

HACHI MAN URA

八幡裏遺跡Ⅲ

国立長野病院看護婦宿舎建設に伴う遺跡発掘調査報告書

1998. 3

上田市・上田市教育委員会
厚生省関東信越地方医務局

例 言

- 1 本書は、長野県上田市緑ヶ丘一丁目27番21号における、国立長野病院看護婦宿舎建設に伴う、八幡裏遺跡第3次発掘調査（略称：八幡裏遺跡Ⅲ）の報告書である。
- 2 調査は、厚生省関東信越地方医務局の委託に基づき、上田市（上田市教育委員会事務局）が実施した。
- 3 現地調査は、平成8年7月1日から7月29日まで行った。また、整理作業は、平成9年1月13日から平成10年3月25日まで、継続的に行った。
- 4 現地調査における重機による表土剥作業及び排土搬出作業は、委託者との協議により、調査担当者中沢の指示のもと、建設工事受注者によって実施した。
- 5 遺構実測の基準となる国家座標に基づくメッシュ杭打ち及び水準点の設置は、専門業者に委託して実施した。
- 6 遺構の実測はメッシュをもとに、簡易やり方により、井沢光子・大井敬子・山本万里・細谷雅枝が行ったほか、業者が実施した航空写真により実施した。
- 7 遺物の洗浄・注記・接合・実測・拓本・観察、遺構及び遺物実測図のトレース、報告書作成は、中沢の責任のもと、久保田敦子・久保田浩・望月貴弘・古野明子及び整理作業員が行った。
- 8 遺物の実測の一部は、業者に写真撮影及び焼付けを委託して、原寸大にプリントしたものをベースに、図化・トレースした。
- 9 遺構及び遺物写真は、中沢が撮影したものを主にし、一部、業者が撮影したものを使用した。
- 10 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。
- 11 本調査にあたり、国立東信病院、佐藤建設・東急建設・東信土建企業共同体、竹原重建の皆さんに御協力をいただいた。記して感謝する次第である。
- 12 本調査に係る調査の体制は次のとおりである。

教 育 長：内藤 尚 [平成9年3月31日退任] 我妻 忠夫 [平成9年4月1日着任]
教 育 次 長：荒井 鉄雄 [平成9年3月31日退任] 宮下 明彦 [平成9年4月1日着任]
文化(社会教育)課長：松沢征太郎 [平成9年3月31日退任] 川上 元 [平成9年4月1日着任]
文化財(文化)係長：岡田洋一
文化財(文化)係職員：中沢徳士、尾見智志、塩崎幸夫、久保田敦子、久保田浩、西沢和浩、清水彰、小笠原正、望月貴弘、古野明子、松野ひろみ
現 場 作 業 員：池田市郎、横沢昇、横沢生枝、村田宣子、岡田和夫、細谷雅枝、宮本五郎、小柳治雄、林正治、井部定雄、大井敬子、井沢光子、山本万里、竹内和好
整 理 作 業 員：池田市郎、小柳治雄、林正治、井部定雄、大井敬子、井沢光子、山本万里、斉藤かな枝、田村まり子、西沢志保、丸田由紀子、饗場奈那江、石合好江
専 門 業 者：現場測量業務…新日本航業株式会社、遺物撮影…小川忠博
表 土 剥 ・ 運 搬：佐藤建設・東急建設・東信土建企業共同体、和農興（竹内和好）
※平成9年4月1日、機構改革により、社会教育課文化係が文化課文化財係となっている。

凡 例

遺 構

- 1 遺構は、次の（ ）内に示す略号で表し、続き番号は任意であり、欠番もある。
 竪穴住居址（SB-） 竪穴住居内の土壌（SK） 土壌（SK-） ピット（P-） 集石（SX-）
- 2 遺構図版は、原則として国家座標に基づく北をページの上にした。紙面の都合により例外もあるが、その場合は別途方位を示した。
- 3 遺構実測図は、原則として原図1/20、縮小1/3とした。さらに、詳細な実測が必要な場合は、原図1/10、縮小1/3とした。例外もあるが、各図の縮尺は、図中のスケールによりたい。
- 4 表記する遺構が、時代の新しい他の遺構や攪乱等によって破壊を受けたり、不明確な場合は、表記する遺構の推定プランを破線で示した。
- 5 住居址の主軸方位は、国家座標の北と住居址の中軸線とのなす角度で示した。
- 6 遺構の規模や標高を示す単位は、すべて「m」である。
- 7 遺構写真図版の縮小は任意である。
- 8 遺構観察表の表記方法は、次のとおりである。
 - (1) 竪穴住居址の壁高は、検出面から床までの壁の高さを示し、（ ）内は方角である。
 - (2) 竪穴住居址の規模ならびに炉の規模は平面の長軸×短軸である。
 - (3) 竪穴住居址の床高は床の標高である。
 - (4) 土壌及びピットの深さは、検出面からの深さを示した。ただし、住居内の土壌は、床からの深さを示した。

遺 物

- 1 土器実測図は、原図1/1、縮小1/3とした。
- 2 土器の実測は、左側に表面紋様の図あるいは拓本を、右側に断面図を示した。文様の実測に当たっては、一部を専門業者撮影の実測用写真をベースに実測した。
- 3 石器の表記は、写真による展開で、専門業者が35mmモノクロフィルムに撮影し、同者が1/1～3/1に焼き付けたもので示した。その際の最終縮小は、その都度示した。
- 4 遺物観察表の「法量」の単位はcmである。
- 5 遺物観察表の「器質」の「胎」は胎土を、「焼」は焼成を、「色」は色調を示す。なお、色調は遺物の外面・内面の基本的な色調を、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』を用いて示した。
- 6 遺物写真図版の縮小は、石器を除いて任意である。

目次

例言

凡例

第一章 序説	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法	1
3 調査の経過	2
第二章 遺跡の環境	4
1 自然的環境	4
2 歴史的環境	5
3 基本的層序	8
第三章 調査の結果	9
写真図版	
出土石器写真	39
遺構写真	45
出土土器写真	49

第1図 調査地位置図(1)	3
第2図 周辺遺跡分布図	6
第3図 調査地位置図(2)	9
第4図 遺構全体図	10
第5図 SB-02 実測図	11
第6図 SB-03 実測図	12
第7図 SB-04 実測図	13
第8図 SK-01 実測図	14
第9図 SX-01 実測図	14
第10図 埋甕址実測図	14
第11図 SB-02 出土土器実測図(1)	17
第12図 SB-02 出土土器実測図(2)	18
第13図 SB-03 出土土器実測図(1)	19
第14図 SB-03 出土土器実測図(2)	20
第15図 SB-04 出土土器実測図(1)	21
第16図 SB-04 出土土器実測図(2)	22
第17図 SK-01 出土土器実測図	23
第18図 SX-01 出土土器実測図	23
第19図 埋甕址出土土器実測図(1)	23
第20図 埋甕址出土土器実測図(2)	24
第21図 遺構外出土土器実測図(1)	24
第22図 遺構外出土土器実測図(2)	25
第23図 遺構外出土土器実測図(3)	26

第1表 周辺遺跡一覧表	7
第2表 遺構観察表(1)	15
第3表 遺構観察表(2)	16
第4表 出土土器観察表(1)	27
第5表 出土土器観察表(2)	28
第6表 出土土器観察表(3)	29
第7表 出土土器観察表(4)	30
第8表 出土土器観察表(5)	31
第9表 出土土器観察表(6)	32
第10表 出土土器観察表(7)	33
第11表 出土土器観察表(8)	34
第12表 出土土器観察表(9)	35
第13表 出土土器観察表(10)	36
第14表 出土土器観察表(11)	37
第15表 出土土器観察表(12)	38
第16表 出土石器観察表	44

第一章 序 説

1 調査に至る経過

平成5年12月の国立長野病院建設に係る協議から、数次の協議を経て実施した平成6年の病棟部分の発掘調査は、病院敷地周辺に所在する八幡裏遺跡が、縄文時代中～後期と奈良・平安時代の集落遺跡であることを知らしめた。特に縄文時代の敷石住居7件と3件の人骨出土の墓壇、住居址出土のイノシシ・シカ等の検出は、太郎山麓扇状地の該期の遺跡について、新たな指標を示した。〔「八幡裏遺跡Ⅱ」1997年上田市教育委員会〕

こうした調査を経て、平成8年2月22日、国立東信病院会議室において、厚生省関東信越地方医務局、国立東信病院、上田市、上田市教育委員会の4者事務担当者により、平成9年7月の国立長野病院開業にむけた遺跡調査に係る調整会議が開催され、今回の看護婦宿舍建築予定地の発掘調査について協議した。

該当地は、これに先立つ平成7年10月に試掘調査を実施しており、その際、遺構が現地表面下0.8～1.2mに確認され、それとともに、縄文土器を少量出土し、看護婦宿舍建設に先立って記録保存のための発掘調査を実施する必要がある。協議の結果、宿舍の建設により地下遺構が破壊される部分約800㎡を調査し、駐車場予定地については、遺構が比較的深い面で確認されていたため、簡易舗装により現状保存することとした。調査期間は、平成8年7月中に行い、調査報告書については別途協議することとした。

2 調査の方法

(1) 遺跡名の取扱いと遺跡記号

遺跡名は「八幡裏遺跡」とした。これは『長野県市町村遺跡分布図』(昭和52年長野県教育委員会)、『上田市文化財分布地図』(昭和54年上田市教育委員会)、『全国遺跡地図 長野県』(昭和58年文化庁文化財保護部)、『長野県史』(長野県史刊行会)記載の「八幡遺跡」と同一であるが、過去の調査の経過から、名称は「八幡裏遺跡」に統一した。

また、記録の便宜を計るため遺跡記号として、H a c h i - M a n - U r aの頭文字を組み合わせて「HMU」とし、第3次調査を示す「Ⅲ」をつけ、「HMU-Ⅲ」とした。各種の記録や遺物の注記にあたっては、この略記号を用いた。

(2) 調査範囲の設定と掘り上げ

調査範囲は、建物建設によって遺構が破壊される部分に設定した。おおまかな表土の除去はバックホーにより行い、その後の遺構検出や遺構の掘り上げは、すべて人力で行った。

(3) 遺構記録の方法

調査区には、国家座標に基づく3×3mのメッシュをはり、メッシュの交点に記号を与えグリッド番号とした。この記号は、基準点を0とし、方向を示すために東・西・南・北にE・W・S・Nを、距離を表すため、3mを1単位として1・2・3・4…を与え、この両者の組合せによって表した。例えば、基準点0から北に96m、東に57mのメッシュの交点は、N32E19となる。遺構平面測量は、このメッシュによる簡易やり方によって行っている。また、記録は航空写真測量も用い、両者を併用した。グリッドは、メッシュの交点を北西とする記号で表し、遺構外出土遺物に関しては、このグリッドによって取り上げた。

なお、基準点0の座標値は、国家座標Ⅷ量系X=45,468.000、Y=-22,074.000である。

3 調査の経過

平成8年

- 6/25 関東信越地方医務局長と上田市長の間で、本調査事業に係る平成8年度分委託契約を締結する。
- 7/1 調査担当者指示のもと、バックホーによる表土除去、10tダンプカーによる排土搬出作業を開始する。
- 7/5 引き続き表土剥と排土搬出を行うとともに、調査区西壁に出た古い建物の鉄筋コンクリートの擁壁をブレーカーで破砕する。重機による表土剥を終了する。
- 7/8 作業員10名により、器材搬入・遺構検出を開始する。
- 7/11 当初の予定よりも、遺跡の破壊される範囲が広がることが判明したため、調査区拡張のため再びバックホーで表土剥を開始する。遺構検出作業の結果、当初SB-01とした遺構が、遺構でないことが判明し、SB-02・03・04が確定した。
- 7/15 おおむねの検出作業は終了したものの、明確にプランが把握できないため、グリッドごとの掘り下げを行い、検出に努める。SB-02・03・04の掘り上げを行う。
- 7/24 N5E54グリッドで埋甕を検出する。
- 7/26 遺構全体清掃を行い、航空写真測量のための撮影を行う。
- 7/29 遺構測量が終了し、現地調査を終了する。

平成9年

- 1/13 遺物洗浄・注記・接合・遺構図整理・トレース作業を開始する。
- 3/25 平成8年度分の調査事業を終了し、整理作業もいったん中断する。
- 10/1 関東信越地方医務局長と上田市長の間で、本調査事業に係る平成9年度分委託契約を締結し、遺物実測・トレース等、遺物整理・報告書作成作業を再開する。

平成10年

- 3/25 報告書を刊行し、すべての調査事業を終了する。



第1図 調査地位置図(1)

第二章 遺跡の環境

1 自然的環境

八幡裏遺跡は、上田盆地千曲川右岸に所在する。上田盆地は、長野県の東部に位置し、千曲川に沿って展開する小盆地で、この盆地は、千曲川によって右岸と左岸に分けられる。右岸は、北に太郎山脈が屏風のように聳え、東方には烏帽子火山群の殿城山があり、平地は、これらの山々に囲まれて、千曲川を底辺とする三角形に展開している。

遺跡の北に聳える太郎山脈は、中央の黄金沢溪谷によって、太郎山(1,164m)と最高峰の東太郎山(1,300m)とに分けられる。黄金沢の西方の山頂線は、多少の凹凸を見せ、岩石がちで、植生もよくない。地質的には、太郎山は第三紀内村層の堅い緑色凝灰岩を主とし、上田城の石垣は、この太郎山から切り出された。太郎山の西の虚空蔵山(1,076m)は、岩肌を露出して、虚空に突出している。その南斜面は急峻で、山麓線は直線的に上田盆地に接している。それに対して黄金沢の東方は趣を異にし、山麓には丘陵状の尾根が伸びている。さらに東方前面には、上野と呼ばれる丘陵性の台地が付属し、この最高所は、これも虚空蔵山(762m)と呼ばれる。この台地は、烏帽子火山から流出した溶岩台地で、神川左岸の矢沢方面と地質的には同質であり、もとは続いていたものである。

遺跡が所在する太郎山脈の南にはいくつかの河谷が数えられ、その谷の出口には扇状地や崖錐が発達している。この中で最も大きく見事なのは黄金沢の扇状地で、その扇頂部に山口という谷集落があり扇状地は一面リンゴ園となっている。この扇状地の南は矢出沢川に切られるが、西側は千曲川第1段丘を崩壊して第2段丘面にかかり、その扇末部は虚空蔵沢の出口にまで及んでいる。ここは地下水が得やすく湧き水も多い。この扇状地の西方では、太郎山が直接平地に接し、虚空蔵沢や声沢などの小溪谷の出口に崖錐が形成されている。

千曲川右岸の山地には、第三系の内村層・別所層などが分布する。遺跡は、内村層に接し、その分布は上田市北方・松代町・坂城町北方・更埴市・真田町・須坂市東方に及ぶ。上田市北方の内村層は、下位から大峰山層・太郎山層・横尾層に区分される。大峰山層は、主に黒色泥層からなり、まれに安山岩質で緑色の火山岩層や砂岩層を挟む。層厚は800m以上ある。太郎山層は大峰山層を整合に覆い、デイサイト質で緑色の凝灰角礫岩からなる。層厚は600mを計る。横尾層は、火砕岩と黒色泥層からなる。なお、この地では、変質作用が認められ、大峰山層・太郎山層下部は曹長石・石英・緑泥岩の組合せであり、太郎山層上部から横尾層は、曹長石・緑泥石質雲母の組み合わせである。

平地に分布する第四系は下位から、虚空蔵山層・染屋層・上田泥流堆積物・河岸段丘堆積物・扇状地堆積物に区分される。遺跡は虚空蔵山層に染屋層上層部と扇状地堆積物が重なる地域である。虚空蔵山層は第四系の最下層で、岩清水台地・太郎山の麓に当たる斜面を形成する。太郎山山麓では、主に内村層のグリーンタフの角礫からなる礫層で、北方の太郎山に由来する。染屋層は、上田市街地の地下に分布する湖成層で、その上層部は礫層を主体とし、層厚0.1~0.5mの砂礫を2~3枚挟む河成堆積物である。安山岩礫のほか、新第三系のグリーンタフ・石英ひん岩の礫を多く含む。扇状地堆積物は、新第三系のグリーンタフからなる。

2 歴史的環境

太郎山脈の南山麓で黄金沢扇状地から西側の千曲川第2段丘面にある秋和付近までの一帯を概観すると、かなりの遺跡分布が見られる。以下、時代に沿って遺跡の在り方を追い、当遺跡を取り巻く歴史的環境を見ていく。

縄文時代の遺跡では、当遺跡の調査の発端となった、思川遺跡があげられる。思川遺跡は、昭和27年に五十嵐幹雄氏が、病院の改築工事中に発見・調査したものであり、今回調査した遺跡の西端の部分である。調査結果は、昭和32年『信濃』第9巻第11号に北上田遺跡として報告された。それによると、明確な遺構は確認できなかったものの、中期加曾利E式と後期堀之内式・加曾利B式などの土器、磨製石斧・打製石斧などとともに、イノシシ・ニホンシカなどの獣骨も出土している。また、平成6年の新病院建設に伴う八幡裏遺跡の第2次調査では、中期後葉から後期中葉の敷石住居址が7件確認されたほか、墓墳が3件確認され、中からは屈葬位の人骨が出土している。また、これら住居址や土壙からは、イノシシ・シカに混じり、ウマの骨も出土した。このほか、今回調査区北西の大星西遺跡でも加曾利E式土器片が表採されている。また、太郎山南斜面の山腹のテラス状台地には、上の平遺跡がある。ここからはかつて、中期加曾利E式土器が表採されていたが、昭和43年の上平地区畜産団地建設に伴う発掘調査では、出土していない。

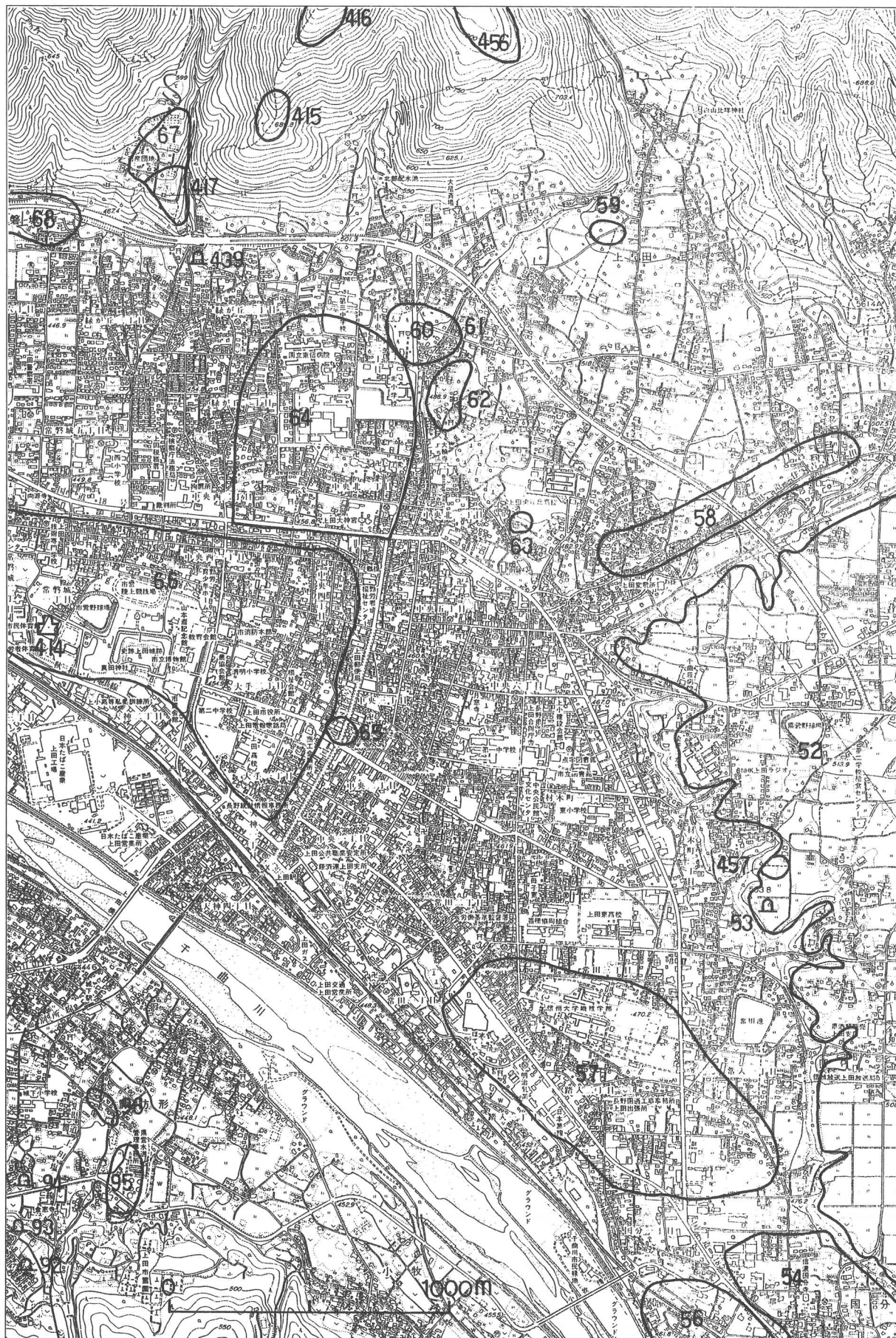
弥生時代の遺跡は太郎山南麓には少ない。八幡裏遺跡南端の上田交通北東線（廃線）敷設工事の際、中期の土器が発見されている。後期には前述の上の平遺跡の土壙から後期箱清水式土器が出土したほか、昭和60年の上田バイパス建設に伴う金井裏遺跡第1次発掘調査の際に同時期の土器が住居址から出土している程度である。

古墳時代、当地域には多くの古墳が築造されている。秋和地区北西の秋和霧原野神社境内にある秋和大蔵京古墳（上田市指定文化財）は、昭和59年、筑波大学の常木晃・望月保宏氏らの実測調査により、基底部の1辺が32～35m、高さは5～8mの方墳と計られ、墳丘上から採取された古式土器片から、築造は4世紀末から5世紀前半に比定されている。（『信濃』第38巻第4号信濃史学会）また、秋和大蔵京古墳の南西に位置する風呂川古墳は、平成4年の新幹線工事用道路開削の際に、（財）長野県埋蔵文化財センターによって周溝の一部（山側）が調査され、5世紀初頭前後の方墳の可能性が指摘された。八幡裏遺跡の東方に隣接する二子塚古墳（上田市指定文化財）は、長野県では数少ない前方後円墳で、全長約51m、前方部最大幅約25m、後円部最大幅約39m、高さ5～6mを計る。北側には周溝の一部と見られる窪みが残るほか、周囲には4基の陪塚を配する。従来は6世紀前半の築造とされていたが、周辺から採取された円筒埴輪片によって、もう少しさかのぼることが想定されている。後期古墳では、昭和62年に、下水道工事中に偶然発見され、調査された豊原古墳がある。この古墳からは、5体の人骨と太刀5口、刀装具、鉄鏃、鉄製品や金環、ガラス小玉などが出土した。また、前述の風呂川古墳のある秋和・塩尻地区にはかつて、6基の古墳が確認されていたが、そのほとんどが破壊され、わずかに虚空蔵山中腹（標高620m）の彌阿陀平古墳（円墳）1基だけが残るだけである。

同時期の集落址については、本遺跡南西部で、平成9年に新病院南口道路建設に伴い発掘調査した八幡裏遺跡第4次調査で、後期の住居址が数件確認されたほか、やはり同遺跡北東部の第1次調査で後期の住居址が1件確認されている。このほか、前述の金井裏遺跡の第1次調査においては前期の住居址が、平成8年の同遺跡の第2次調査では後期の住居址が確認されている。このほか、八幡裏遺跡に隣接する雁堀遺跡においても表採されているが、古墳の数に比して、集落の実態はあまりよく判っていない。

奈良・平安時代の遺構としては、本遺跡の第2次調査において、平安時代の住居址が13件確認されたほか、前述の第4次調査においても数件確認されている。このほか、昭和60年に上田バイパス建設工事に伴い調査された殿田遺跡では、奈良・平安期の住居址が5件が検出されたほか、前述の上の平遺跡の調査では、奈良時代の須恵器窯が確認されている。

中世以降の集落については不明であるが、太郎山中腹には尾根ごとに山城が構えられ、その段郭が残っている。昭和の前半まで一帯は、「蚕都うえだ」の繁栄を支えた桑園や、果樹園が広がっていたが、蚕糸業の衰退とともに住宅地化し、上田市でも良好な住宅地となっている。



第2図 周辺遺跡分布図

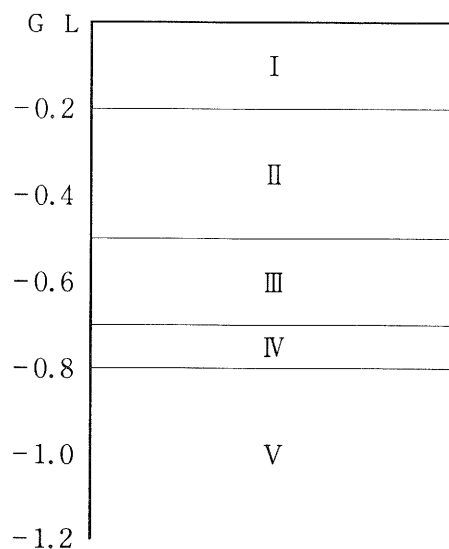
番号	遺 跡 名	時 代	遺 跡 の 所 在 地	備 考
52	染屋台条里水田跡遺跡	弥生～平安	上野・住吉・古里・国分	85年～数次調査
53	向田古墳	古墳	古里字向田1861	半壊
54	国分遺跡群	弥生～平安	国分字古城堂浦屋敷	97年調査
56	国分寺周辺遺跡群	縄文～平安	国分寺字仁王堂明神前他	94年県埋文調査
57	常入遺跡群	縄文～平安	常入字堀の内・中常田他	96年調査
58	金井裏遺跡	縄文～平安	上田字金井裏蟹原	85・96年調査
59	東奥山原遺跡	弥生・平安	上田字東奥山原	
60	二子塚古墳	古墳	上田字秋葉裏	
61	大星西遺跡	縄文・古墳	上田字大星	
62	雁堀遺跡	弥生・平安	上田字雁堀	
63	西丘遺跡	平安	上田字西丘	
64	八幡裏遺跡	縄文・平安	上田字思川・大星前他	94年～4次調査
65	海野遺跡	弥生・平安	上田字海野	
66	上田城跡	近世	上田字二の丸	93年～95年調査
67	上平遺跡	縄文～平安	常磐城字上平	
68	殿田遺跡	平安	常磐城字横畑・仁王田	
92	上平古墳	古墳	諏訪形字上平	
93	森の木1号古墳	古墳	諏訪形字森の木	
94	森の木2号古墳	古墳	諏訪形字森の木	
95	洪取田遺跡	縄文	諏訪形字洪取田・中堰	
96	中沢遺跡	平安	諏訪形字中沢	
414	小泉曲輪城跡	近世	上田字上田城廻り	
415	牛伏城跡	近世	常磐城字虚空蔵	
416	アラ城跡	近世	常磐城字太郎山	
417	北林城跡	近世	常磐城字上平	
439	豊原古墳	古墳	上田字豊原	
456	花古屋城跡	近世	上田字花古屋	
457	染屋城跡	近世	古里字英	

第1表 周辺遺跡一覧表

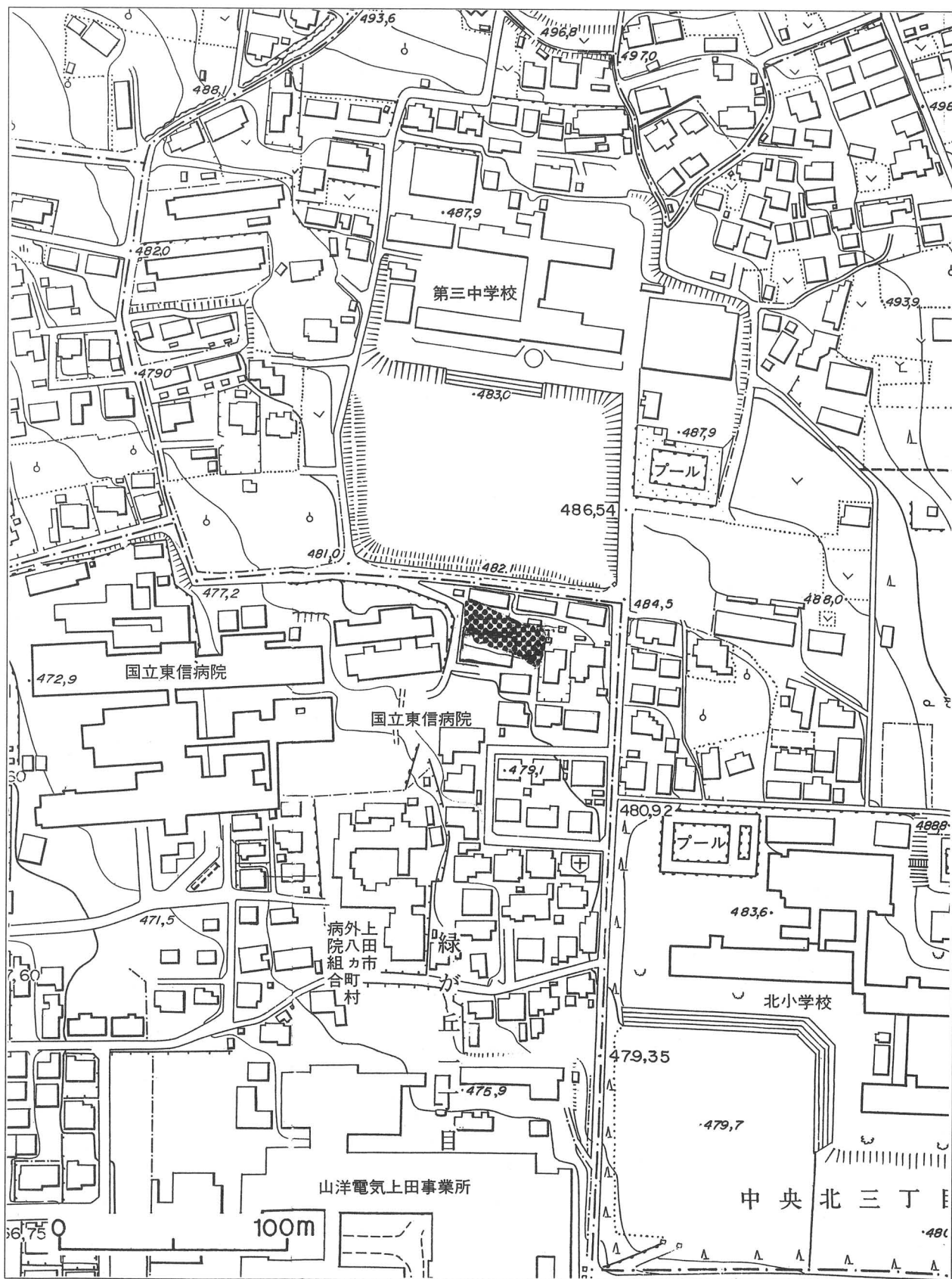
3 基本的層序

自然環境でも述べたとおり、調査地は太郎山に発する黄金沢扇状地の端に位置し、角礫を多く含む砂礫土層が主体の土地である。

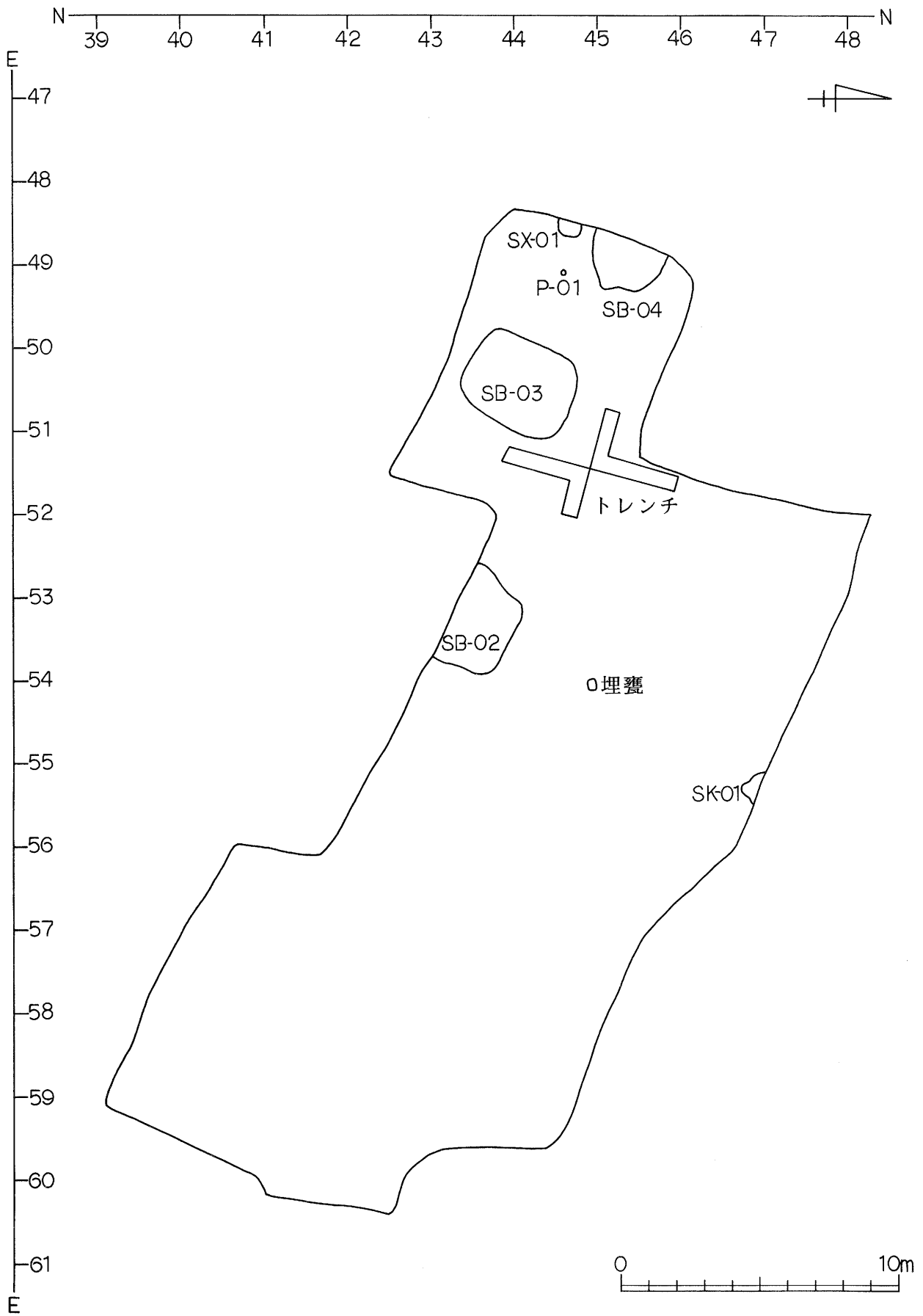
調査地における土層は、おおむね3層に分類でき、表土の第Ⅰ層は、宅地面に敷かれていた碎石の客土である。Ⅱ層は、扇状地堆積物の土層で、褐色(7.5YR4/3)を呈する。シルト質で2～3cmの垂角礫を多く含む。Ⅲ層は、黒褐色(5YR2/2)を呈し、粒子はシルト質で、礫は少ない。Ⅳ層は、暗赤褐色(5YR3/4)で、Ⅲ層より赤みを帯び、粒子はシルト質で、礫も少なめである。Ⅴ層は極暗赤褐色(5YR2/3)の砂質の5～6cmの垂円礫を非常に多く含む土である。遺構は、Ⅳ層もしくはⅤ層上で検出される。



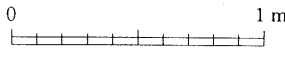
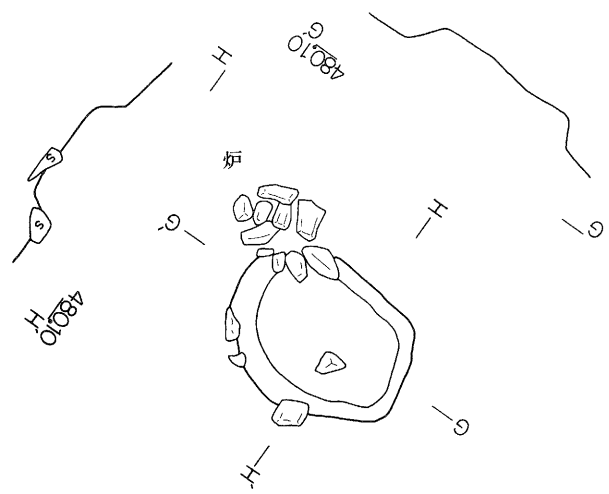
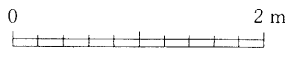
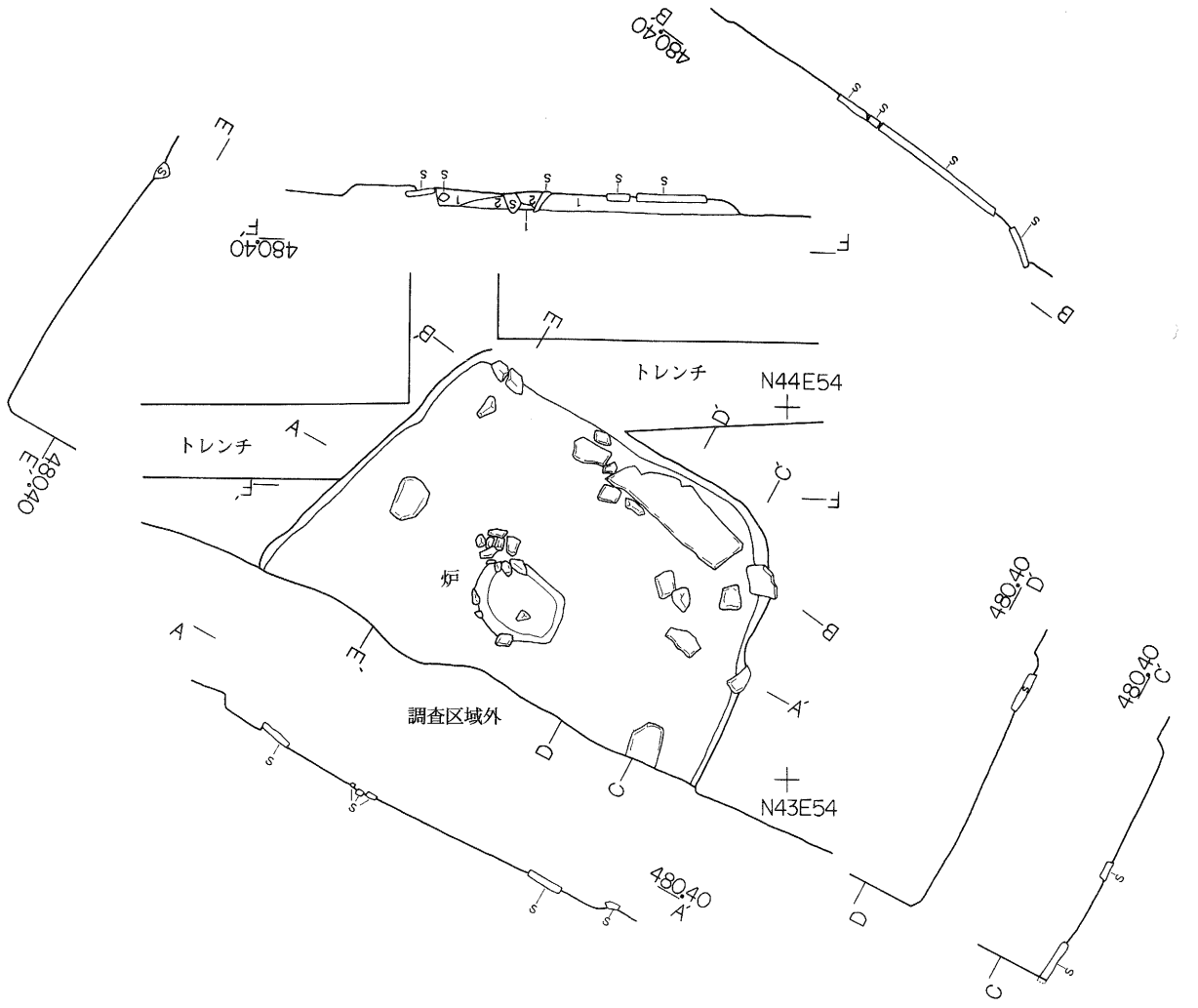
第三章 調査の結果



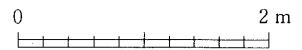
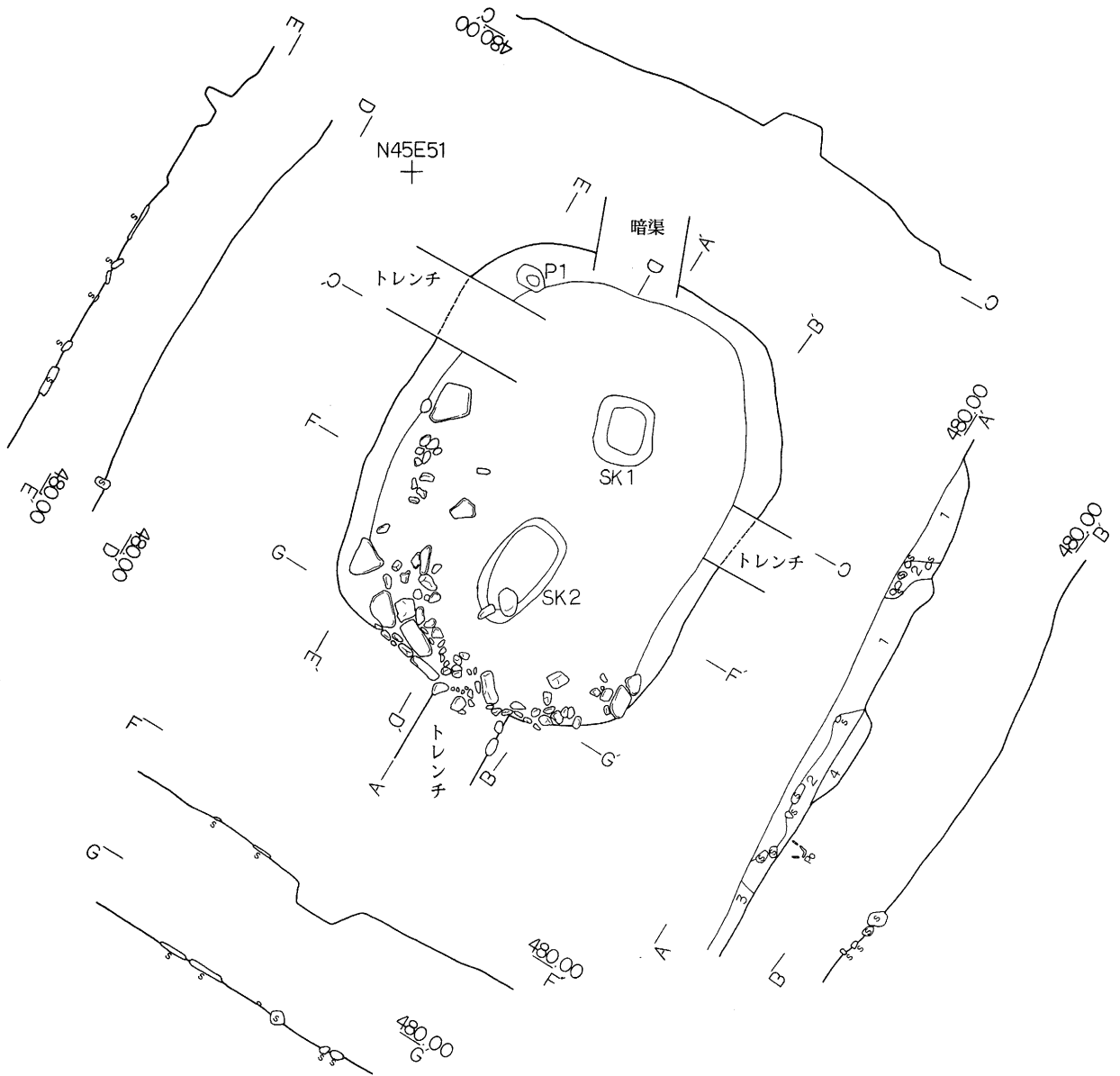
第3図 調査地位置図(2)



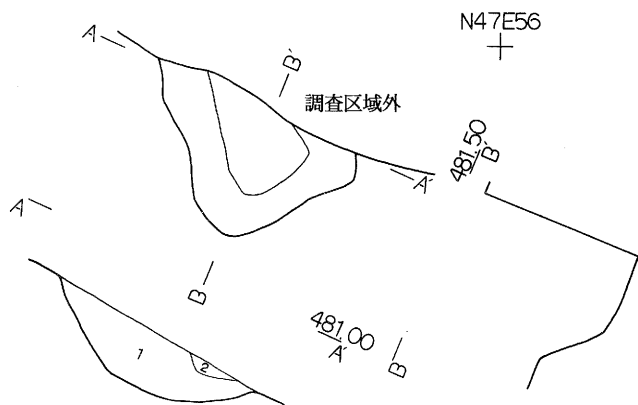
第4図 遺構全体図



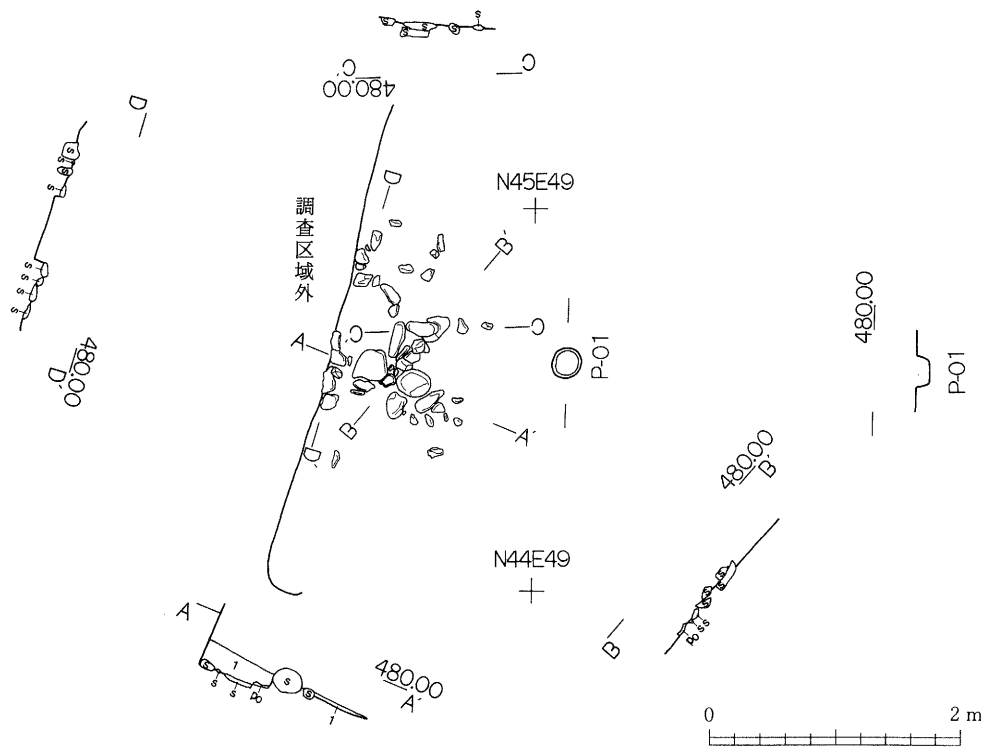
第5図 SB-02 実測図



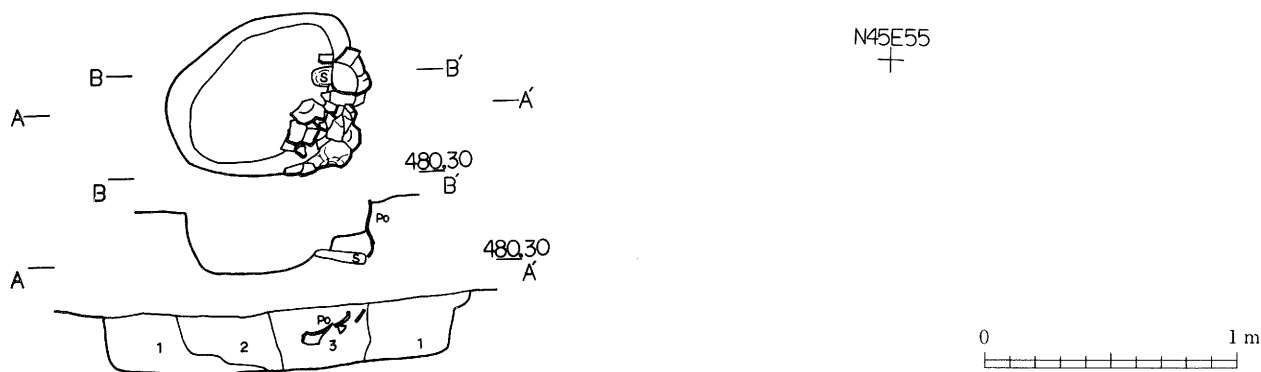
第6図 SB-03 実測図



第8図 SK-01 実測図



第9図 SX-01 実測図



第10図 埋壙址実測図

SB-02

遺構図版 第5図		遺物図版 第11、12図		その他	柱穴	不明	
位置	グリッド	N44E53 N44E54 N45E54			の 炉	位置	北寄り中心
	床高	479.90~480.00		規模		0.75×0.59	
規模	規模	-×3.9		他	覆土	1 7.5YR3/2黒褐色砂質土小石混	
	壁高	0.18(W)~0.12(E)			形態		
覆土	1 7.5YR3/3暗褐色砂質土 礫多く含む 2 7.5YR3/2黒褐色拳大の角礫			備考	遺構南側は調査区域外		
形態	平面形態	不明					
	主軸方位	N-34°-E					

SB-03

遺構図版 第6図		遺物図版 第13、14図		その他	柱穴	不明	
位置	グリッド	N45E51 N45E52 N44E51 N44E52			の 炉	不明	
	床高	479.60~479.50		他		土	SK1 (0.60×0.52×0.25)
規模	規模	4.0×3.2			他	壙	SK2 (1.00×0.54×0.26)
	壁高	0.08(E)~0.20(N)		備考			
覆土	1 7.5YR3/3暗褐色砂質土 礫多く含む 2 7.5YR3/2黒褐色拳大の角礫 3 7.5YR3/2褐色砂質土 4 2.5YR3/2暗赤褐色砂質土				備考		
	形態	平面形態	楕円形				
主軸方位		N-31°-E					

SB-04

遺構図版 第7図		遺物図版 第15、16図		その他	柱穴	不明	
位置	グリッド	N45E49 N45E50 N46E49 N46E50			の 炉	位置	不明
	床高	479.60~479.74		規模		0.58×0.42	
規模	規模	-×2.45		他	覆土	1 5YR3/3暗赤褐色砂質土	
	壁高	不明			形態	方形	
覆土	1 7.5YR4/5褐色 しまりのある土			備考	遺構西側は調査区域外		
形態	平面形態	不明					
	主軸方位	不明					

第2表 遺構観察表(1)

SK-01

遺構図版 遺物図版	位 置	長 短 深 径 径 径 さ	平 面 形 態 断 面 形 態	覆 土	備 考
第8図 第17図	N47E56	— 1.30 0.50	隅丸長方形 すり鉢状	1 5YR3/1黒褐色砂質土 石混り 2 5YR3/2暗黒褐色砂質土 石混り	

SX-01

遺構図版 遺物図版	位 置	長 短 深 径 径 径 さ	覆 土	備 考
第9図 第18図	N45E49	2.1 —	1 7.5YR4/5褐色 しまりのある土	

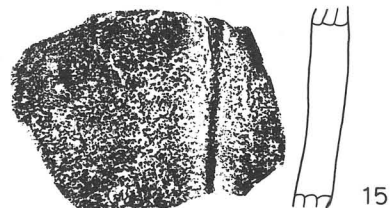
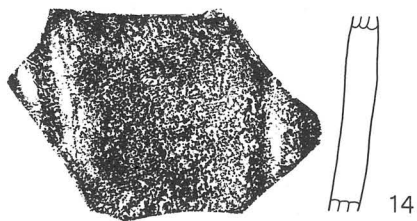
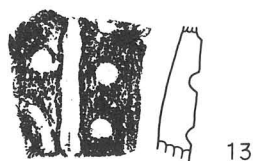
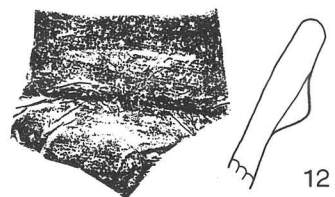
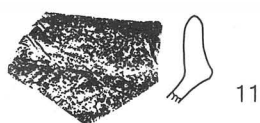
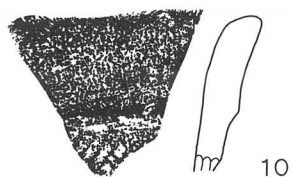
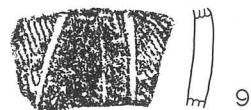
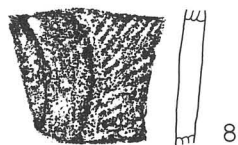
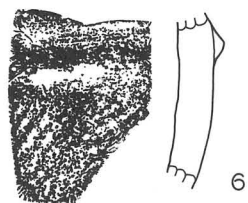
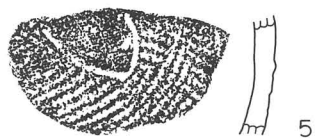
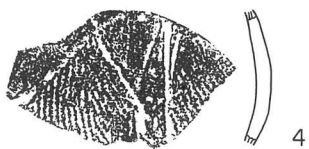
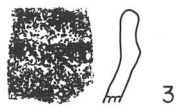
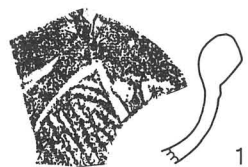
埋 葬 址

遺構図版 遺物図版	位 置	長 短 深 径 径 径 さ	覆 土	備 考
第10図 第19、20図	N45E55	0.80 0.60 0.50	1 7.5YR3/4暗褐色砂質土 小石混り 2 10YR2/3黒褐色砂質土 小石混り 3 10YR3/4暗褐色砂質土 小石混り	3個体以上の深鉢が 一括出土する

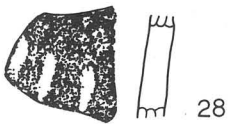
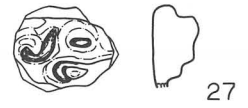
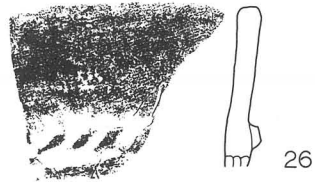
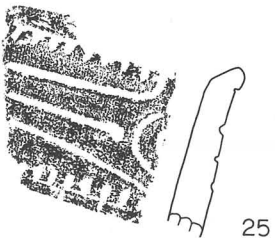
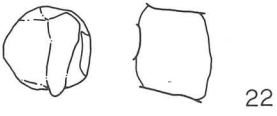
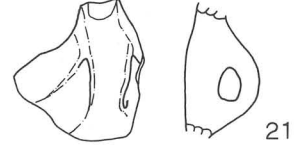
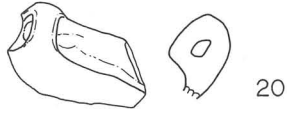
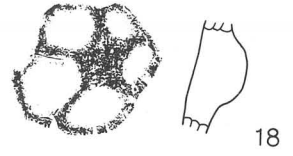
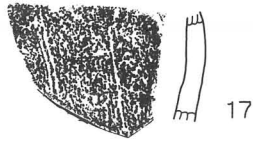
ピ ッ ト

遺構図版	位 置	長 径	短 径	深 さ	備 考
第9図	N45E50	0.20	0.18	0.10	

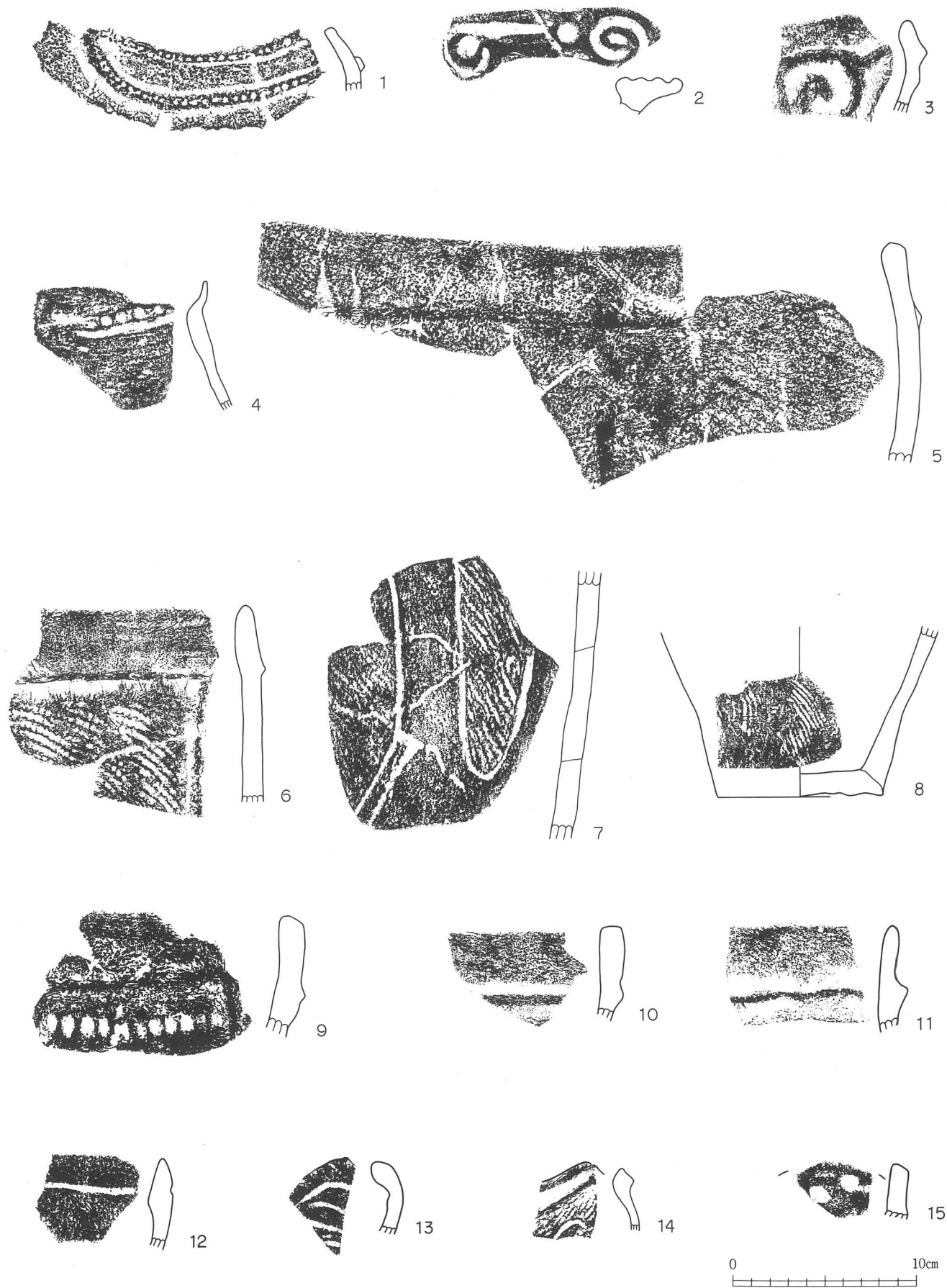
第3表 遺構観察表(2)



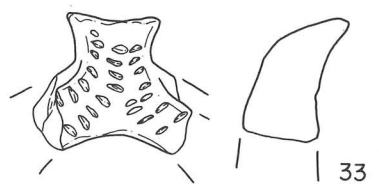
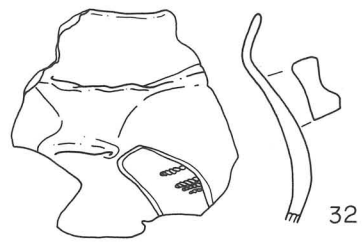
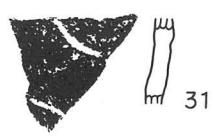
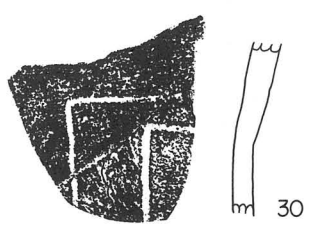
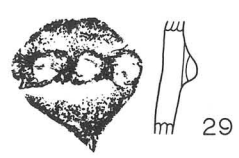
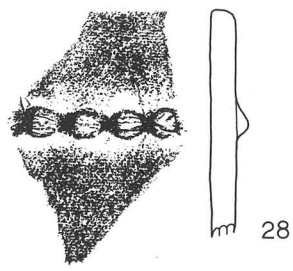
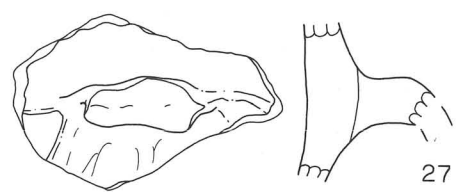
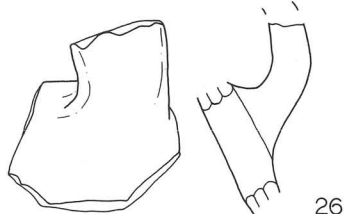
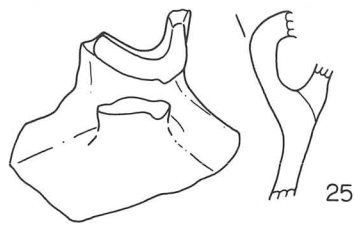
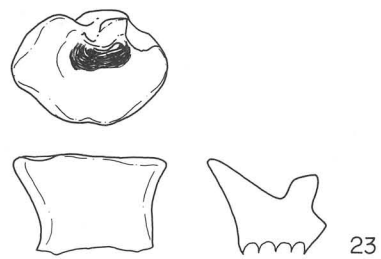
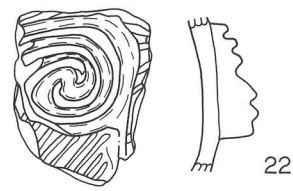
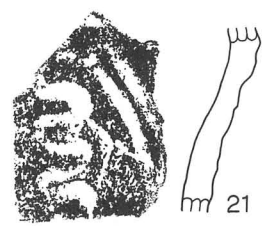
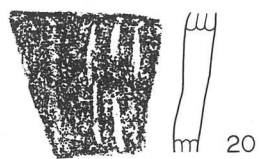
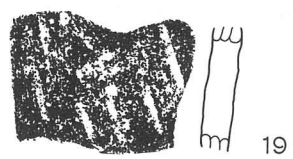
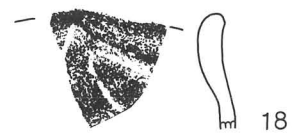
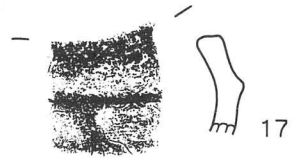
第11图 SB-02 出土土器实测图(1)



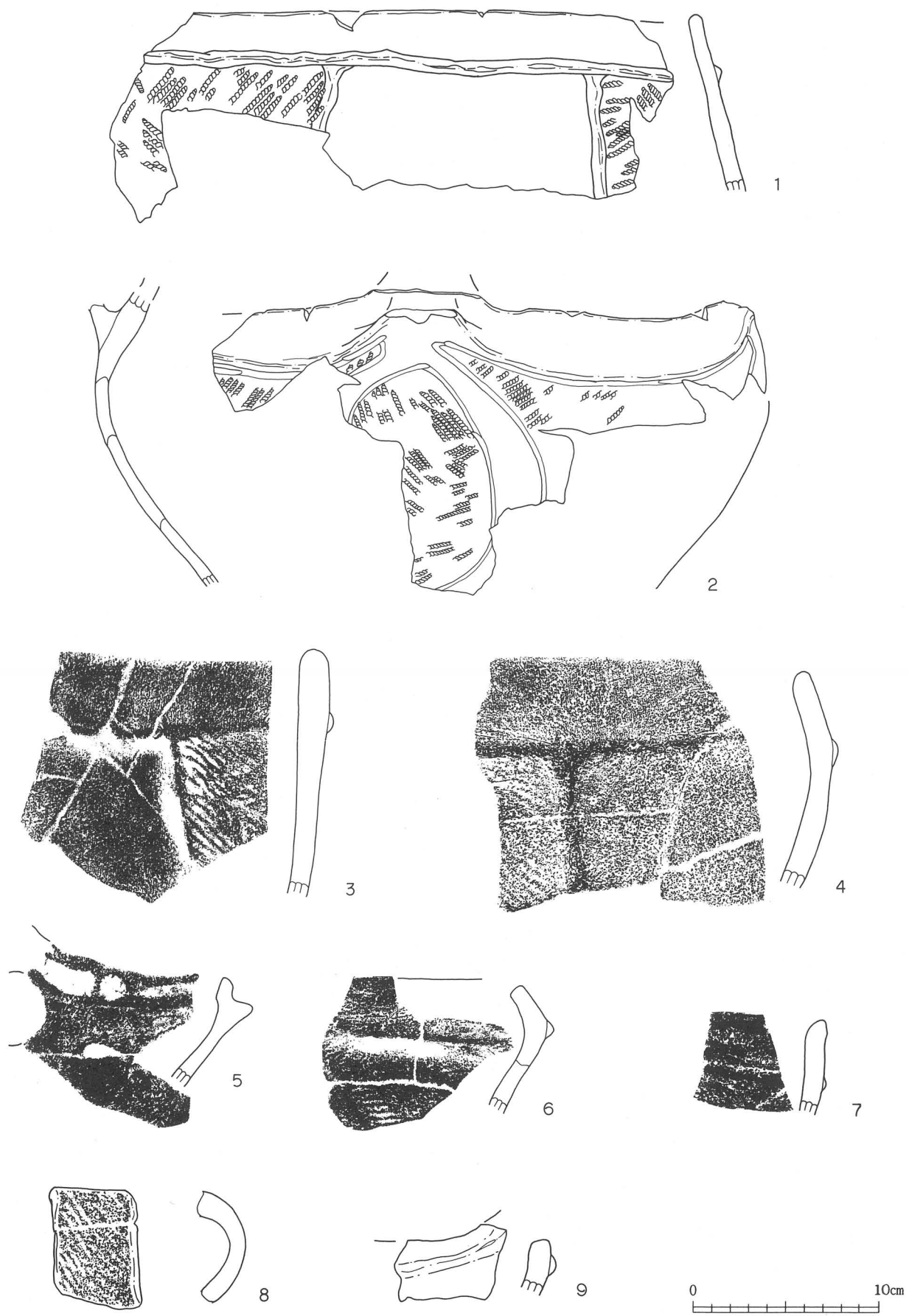
第12图 SB-02 出土土器实测图(2)



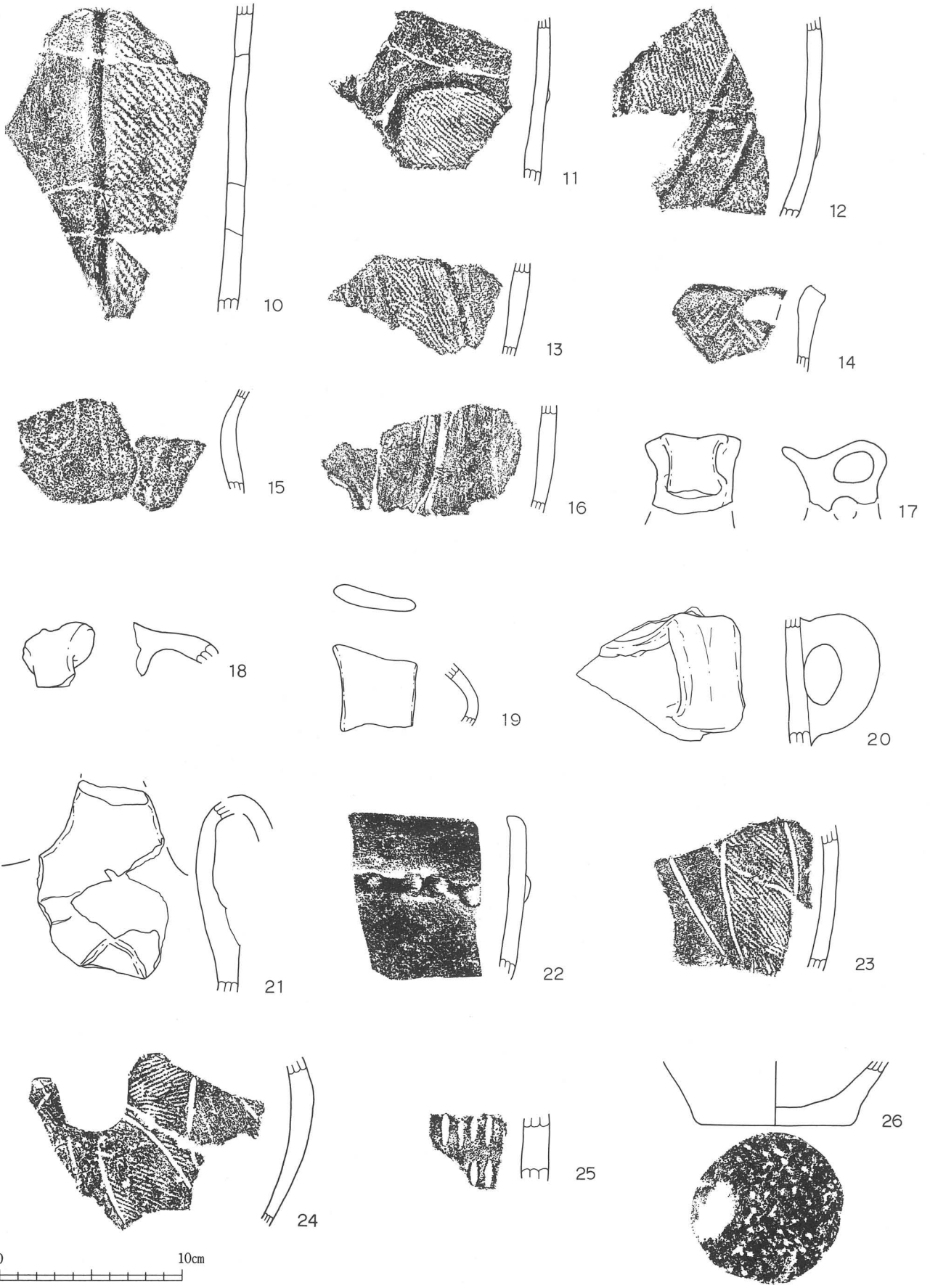
第13图 SB-03 出土土器实测图(1)



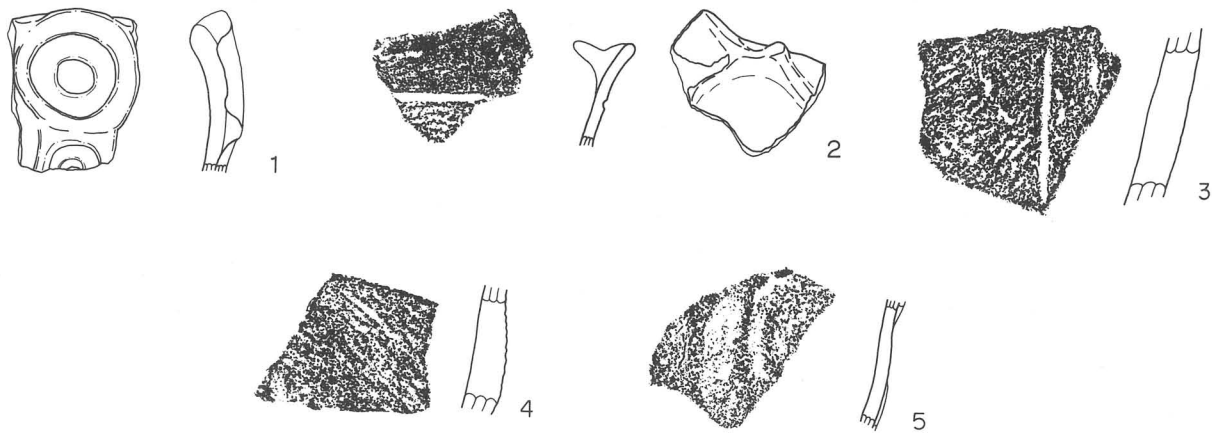
第14图 SB-03 出土土器实测图(2)



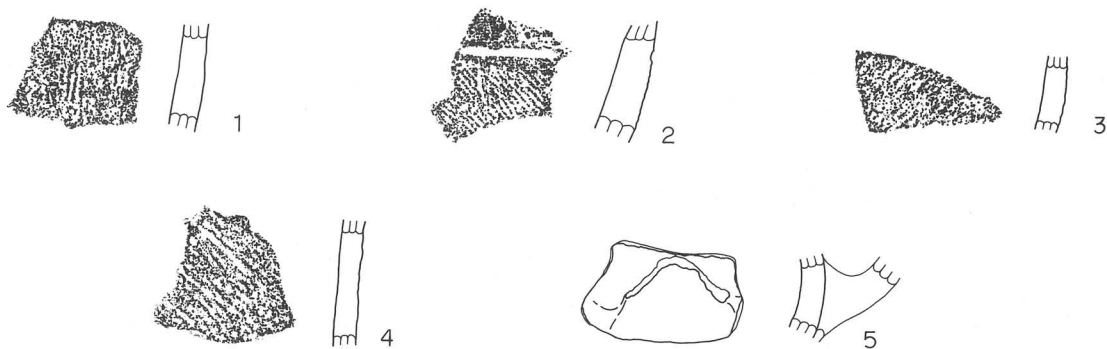
第15图 SB-04 出土土器实测图(1)



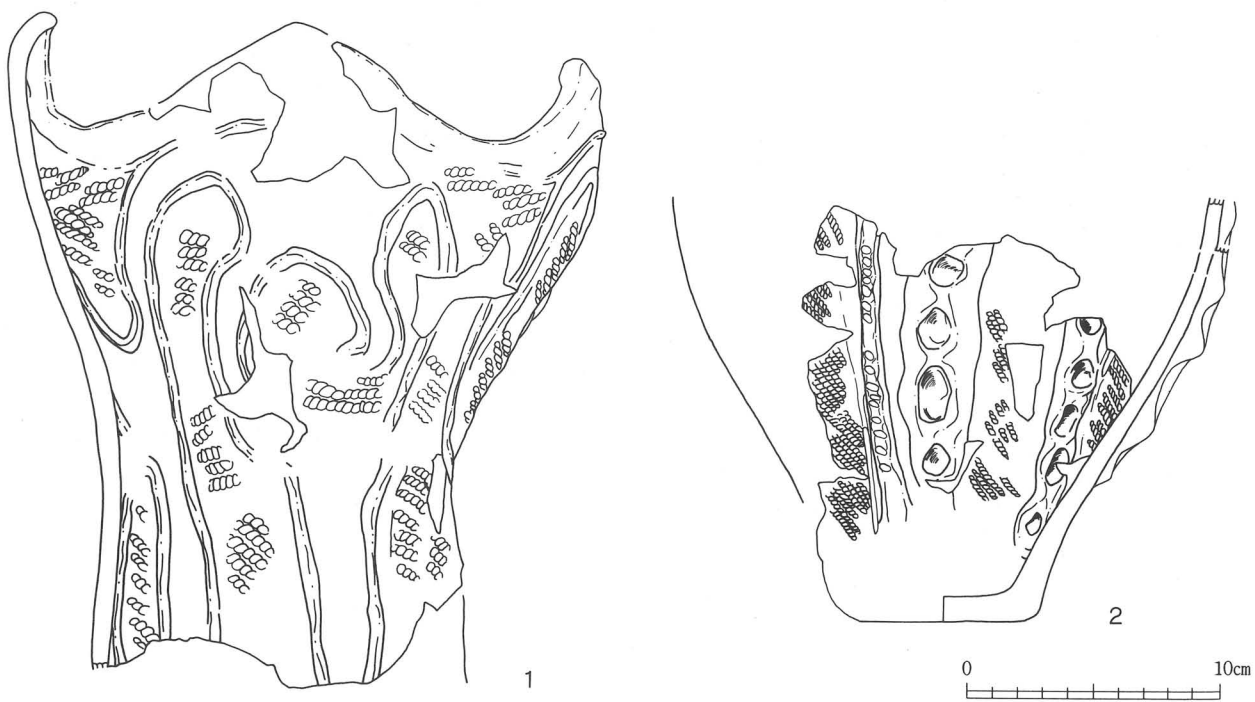
第16图 SB-04 出土土器实测图(2)



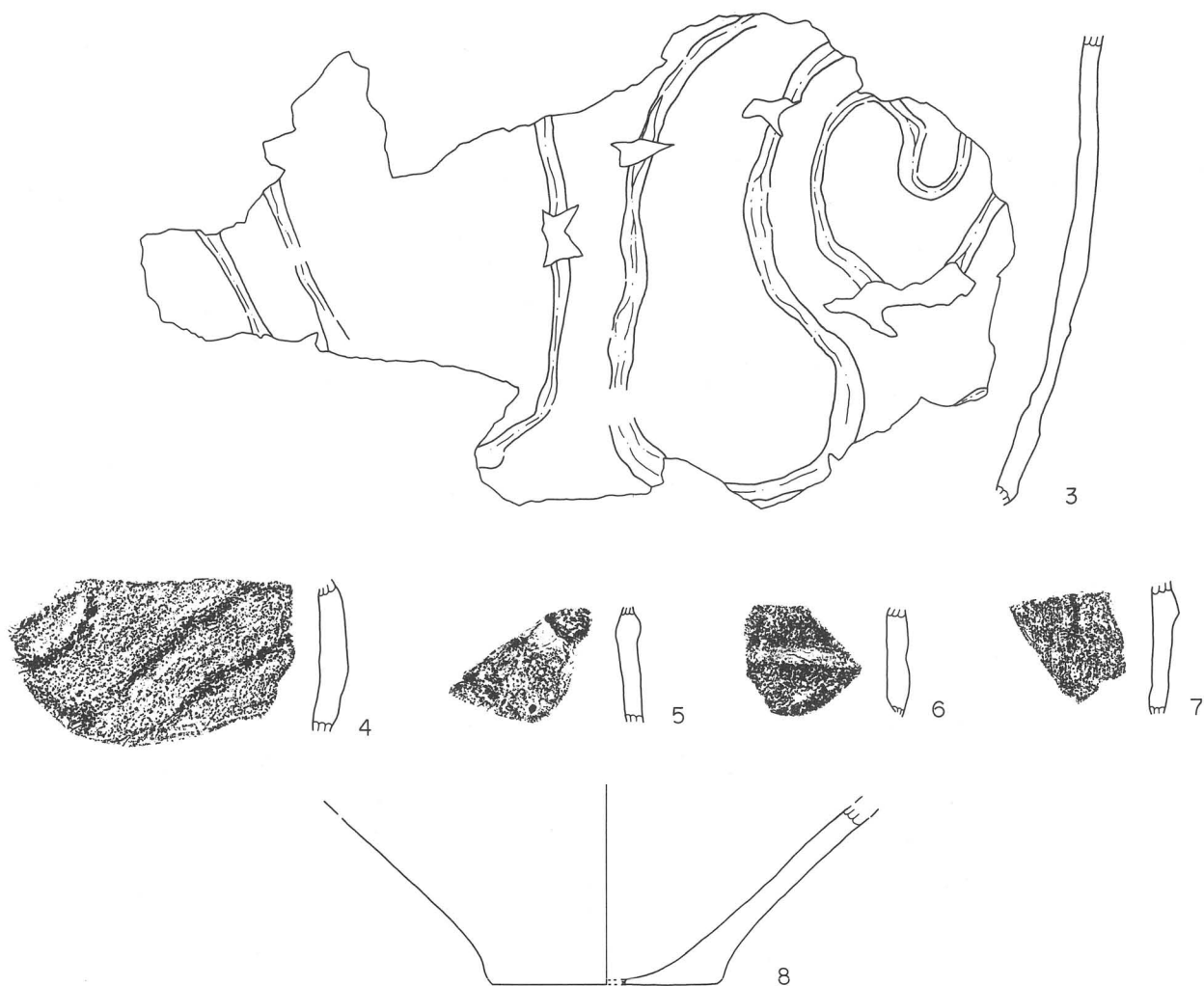
第17图 SK-01 出土土器实测图



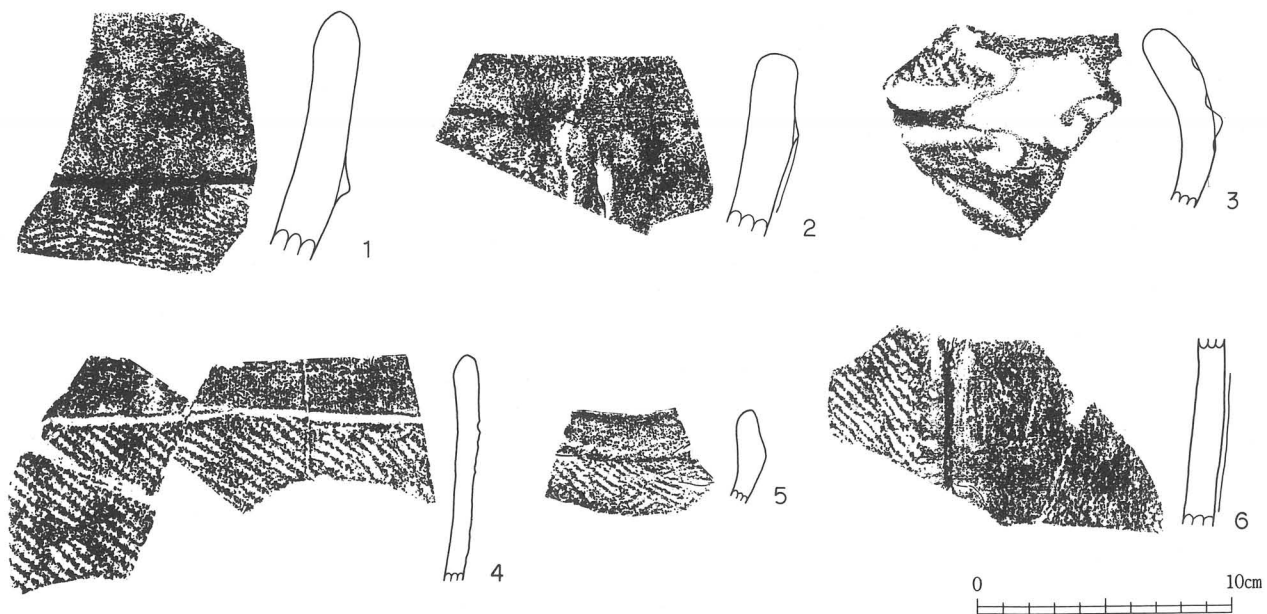
第18图 SX-01 出土土器实测图



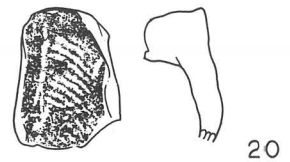
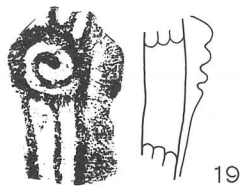
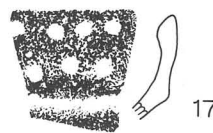
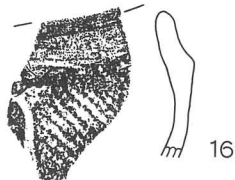
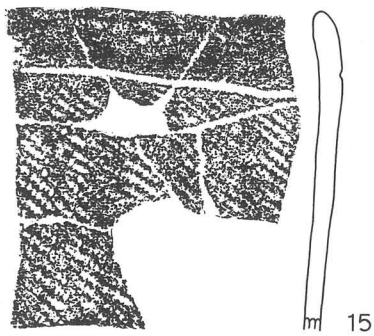
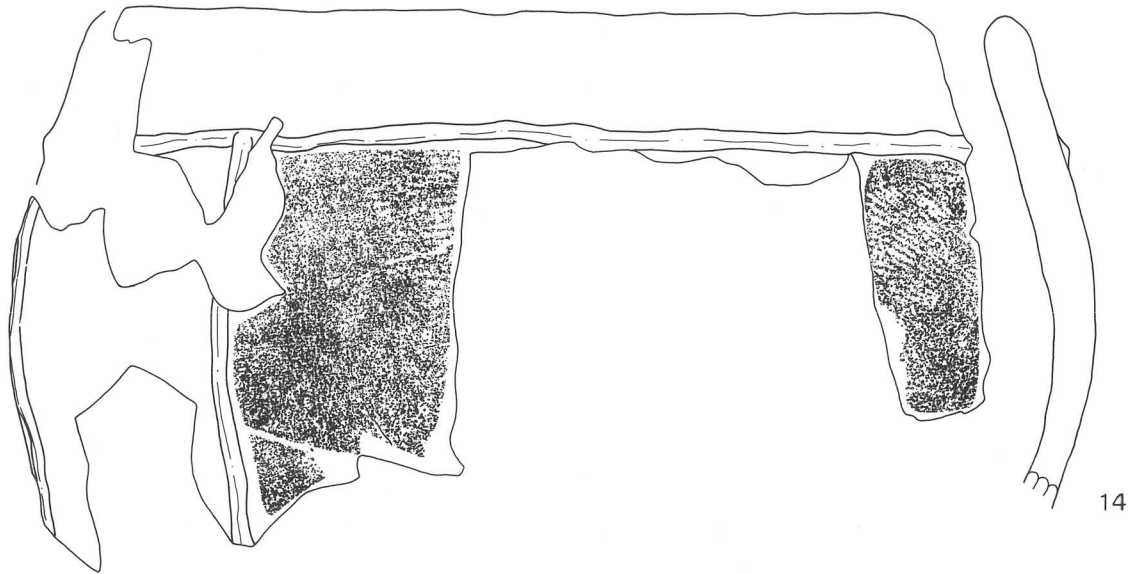
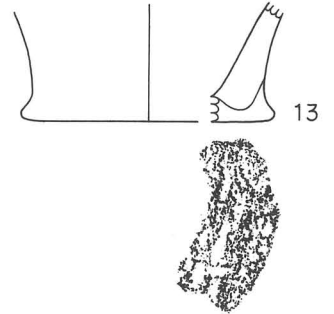
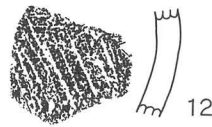
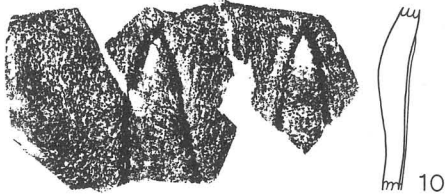
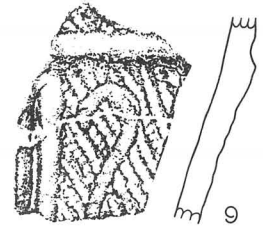
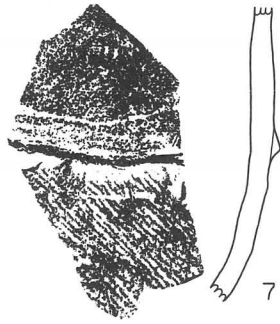
第19图 埋甕址出土土器实测图(1)



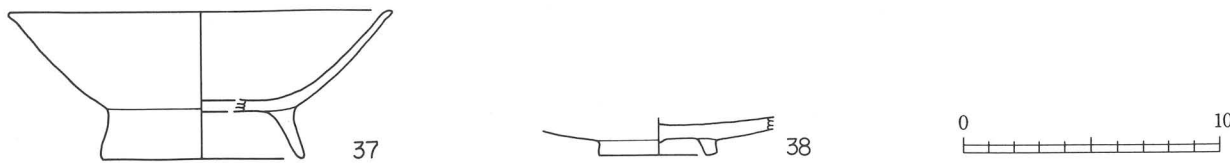
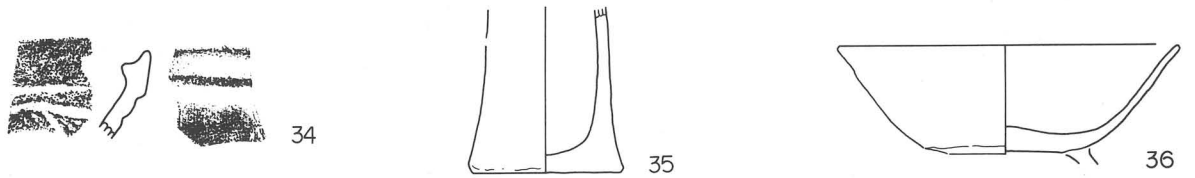
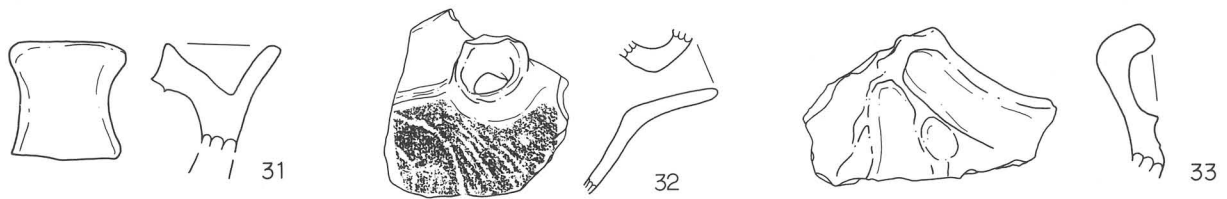
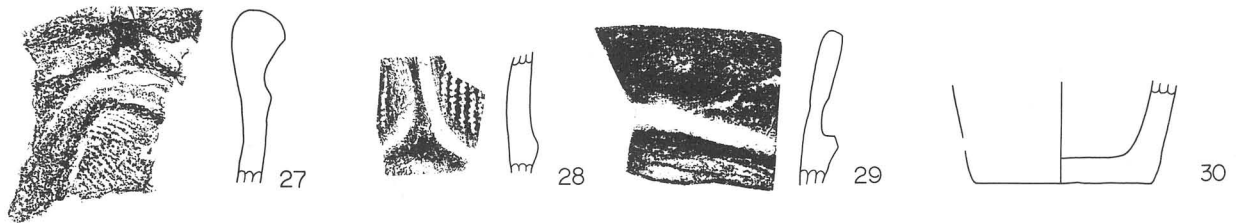
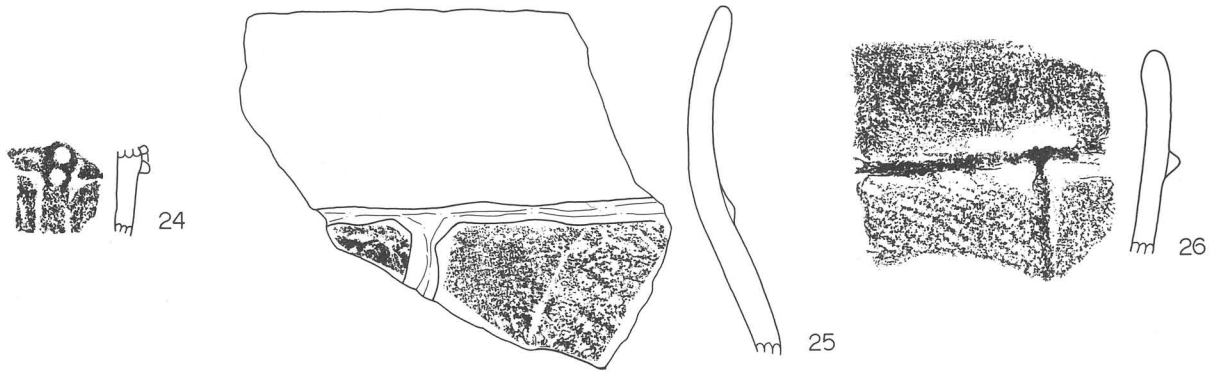
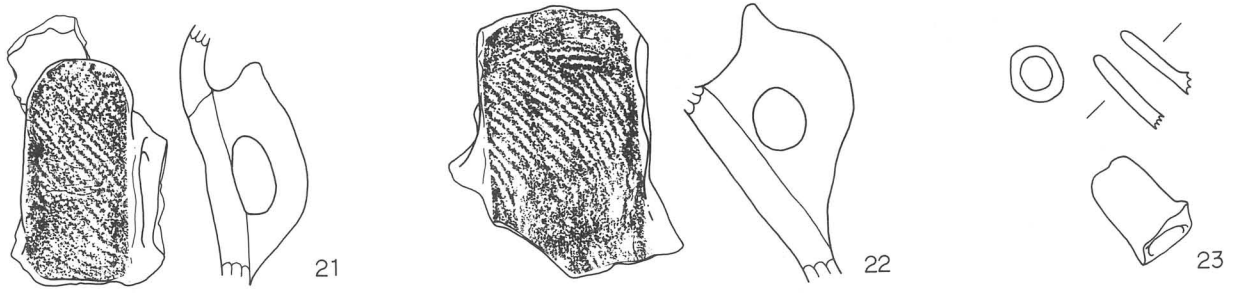
第20図 埋壙址出土土器実測図(2)



第21図 遺構外出土土器実測図(1)



第22图 遺構外出土土器実測图(2)



第23図 遺構外出土土器実測図(3)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成 形 態	整 形 ほ か
SB-02 11-1	不明 縄文	口径 残高 5.1 底径 口縁一部	胎；礫、雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3にぶい褐 (内)7.5YR6/6橙		(外)沈線で区画し、磨 消縄文を施す (内)撫で
SB-02 11-2	不明 縄文	口径 残高 3.4 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR3/2黒褐 (内)10YR3/3暗褐		(外)沈線による文様を 施す (内)
SB-02 11-3	深鉢 縄文	口径 残高 3.5 底径 口縁一部	胎；粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)7.5YR3/2黒褐		(外)隆起線文 (内)
SB-02 11-4	深鉢 縄文	口径 残高 5.1 底径 胴部一部	胎；細砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)2.5YR2/3極暗赤褐 (内)2.5YR2/3極暗赤褐		(外)縄文を施した上に 沈線を施す (内)
SB-02 11-5	深鉢 縄文	口径 残高 4.6 底径 胴部一部	胎；細砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)2.5YR2/3極暗赤褐 (内)7.5YR3/2黒褐		(外)沈線で区画し、充 填縄文を施す (内)撫で
SB-02 11-6	深鉢 縄文	口径 残高 6.9 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)7.5YR6/8橙		(外)隆起線文で区画し、 RL縄文を施す (内)
SB-02 11-7	深鉢 縄文	口径 残高 4.6 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)7.5YR7/6橙		(外)縄文 (内)撫で
SB-02 11-8	深鉢 縄文	口径 残高 5.1 底径 胴部一部	胎；粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/6浅黄橙 (内)7.5YR8/6浅黄橙		(外) (内)磨き
SB-02 11-9	深鉢 縄文	口径 残高 3.7 底部 胴部一部	胎；粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/8明褐 (内)7.5YR3/3暗褐		(外)沈線で区画し、縄 文を施す (内)撫で
SB-02 11-10	深鉢 縄文	口径 残高 6.2 底部 口縁一部	胎；礫、雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/2灰褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐		(外)隆起線文で区画し、 縄文を施す (内)
SB-02 11-11	深鉢 縄文	口径 残高 2.9 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/3にぶい黄褐 (内)10YR5/3にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐		(外)磨消縄文を施す (内)
SB-02 11-12	深鉢 縄文	口径 残高 6.7 底径 口縁一部	胎；礫、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)10YR3/2黒褐		(外)口縁部に平行に隆 起縄文を施す (内)

第4表 出土土器観察表(1)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
SB-02 11-13	深鉢 縄文	口径 残高 4.8 底径 胴部一部	胎；礫、雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4褐 7.5YR3/2黒褐 (内)10YR4/3にぶい黄褐		(外)沈線と刺突文 (内)
SB-02 11-14	深鉢 縄文	口径 残高 7.6 底径 胴部一部	胎；粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)7.5YR6/8橙	粘土帯積 み上げ	(外)隆起線文 (内)
SB-02 11-15	深鉢 縄文	口径 残高 7.9 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒を多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)7.5YR6/8橙	粘土帯積 み上げ	(外)隆起線文 (内)
SB-02 12-16	不明 縄文	口径 残高 3.7 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR3/2黒褐 (内)10YR3/1黒褐	口縁は内 側に肥厚 する	(外)沈線で区画し、磨 消縄文を施す (内)
SB-02 12-17	深鉢 縄文	口径 残高 5.2 底径 胴部一部	胎；粗砂粒を少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/8黄橙 (内)10YR4/2灰黄褐		(外)櫛描文 (内)
SB-02 12-18	不明 縄文	口径 残高 4.4 底径 文様部のみ	胎；礫、雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外) (内)
SB-02 12-19	深鉢 縄文	口径 残高 4.2 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/6浅黄橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外)連続した突帯 (内)
SB-02 12-20	不明 縄文	口径 残高 3.3 底径 口縁一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/3にぶい黄褐 7.5YR6/6橙 (内)10YR6/4にぶい黄橙	橋状把手	(外) (内)
SB-02 12-21	深鉢 縄文	口径 残高 5.3 底径 把手部のみ	胎；礫、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR3/2黒褐 5YR5/6明赤褐 (内)5YR6/6橙	橋状把手	(外) (内)
SB-02 12-22	不明 縄文	口径 残高 3.3 底径 把手一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR2/2黒褐 7.5YR4/6褐 (内)		(外) (内)
SB-02 12-23	深鉢 縄文	口径 残高 5.6 底径 11.0 底部 1/3	胎；礫、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/4にぶい黄褐 (内)5YR5/6明赤褐		(外) (内)
SB-02 12-24	深鉢 縄文	口径 残高 1.8 底径 7.5 底部一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/3にぶい黄褐 (内)5YR6/6橙		(外) (内)

第5表 出土土器観察表(2)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
SB-02 12-25	不明 縄文	口径 残高 6.7 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR4/6褐		(外)刺突文と沈線による文様を施す (内)
SB-02 12-26	深鉢 縄文	口径 残高 6.3 底径 口縁一部	胎；礫、雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR6/6橙	口縁部に 面取りを 施す	(外)刻みを入れた隆帯を施す (内)撫で
SB-02 12-27	不明 縄文	口径 残高 3.2 底径 口縁一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/6赤褐 (内)7.5YR4/4褐		(外) (内)
SB-02 12-28	深鉢 縄文	口径 残高 3.8 底径 胴部一部	胎；黒色石粒、粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)2.5YR6/8橙		(外)刺突文 (内)
SB-02 13-1	浅鉢 縄文	口径 残高 3.7 底径 口縁一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR3/4暗褐 (内)7.5YR4/4褐		(外) (内)
SB-02 13-2	深鉢 縄文	口径 残高 2.8 底径 口縁一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2灰褐 7.5YR3/2黒褐 (内)7.5YR7/4にぶい橙 7.5YR3/2黒褐		(外) (内)
SB-02 13-3	深鉢 縄文	口径 残高 5.0 底径 口縁一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4にぶい橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外) (内)磨き
SB-02 13-4	深鉢 縄文	口径 残高 6.7 底径 口縁一部	胎；石英、粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/6浅黄橙 (内)7.5YR6/1褐灰	口縁部は 外反し、 口唇部に 面取りを 施す	(外)連続刺突文と平行し一条の沈線を施す (内)磨き
SB-02 13-5	不明 縄文	口径 残高 12.0 底径 口縁一部	胎；小石、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8橙 (内)5YR6/8橙		(外)隆起線文で口縁部と胴部を区画し、胴部に隆起線文、縄文を施す (内)撫で
SB-02 13-6	深鉢 縄文	口径 残高 11.0 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4にぶい赤褐 (内)5YR4/4にぶい赤褐		(外) (内)
SB-02 13-7	深鉢 縄文	口径 残高 14.3 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/8黄橙 (内)7.5YR6/8橙	粘土帯積 み上げ	(外)磨消縄文を施す RL縄文、U字形の隆起線文で区画する (内)
SB-02 13-8	深鉢 縄文	口径 残高 9.3 底径 9.0 底部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/8明赤褐 (内)7.5YR4/1褐灰		(外) (内)埋甕

第6表 出土土器観察表(3)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
SB-03 13-9	深鉢 縄文	口径 残高 6.3 底径 口縁一部	胎；礫多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/6浅黄橙 (内)7.5YR8/6浅黄橙	口縁部は 内弯する	(外)口縁部に平行に隆 起線文と刺突文を 施す (内)撫で
SB-03 13-10	深鉢 縄文	口径 残高 4.8 底径 口縁一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR5/6明赤褐		(外) (内)
SB-03 13-11	深鉢 縄文	口径 残高 5.7 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR5/6明褐	口縁部に 隆帯がめ ぐる	(外) (内)
SB-03 13-12	深鉢 縄文	口径 残高 4.8 底径 口縁一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐	口縁部の 内側が肥 厚する 波頂部	(外) (内)
SB-03 13-13	深鉢 縄文	口径 残高 4.0 底径 口縁一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3にぶい赤褐 (内)5YR4/4にぶい赤褐	波頂部	(外) (内)
SB-03 13-14	深鉢 縄文	口径 残高 3.3 底径 口縁一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR3/3暗赤褐 5YR2/2黒褐 (内)5YR3/3暗赤褐	波頂部 口縁部は 肥厚する	(外) (内)
SB-03 13-15	深鉢 縄文	口径 残高 3.0 底径 口縁一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明褐 (内)5YR5/6明褐	波頂部	(外)刺突文 (内)
SB-03 14-16	深鉢 縄文	口径 残高 4.3 底径 口縁一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4にぶい赤褐 (内)7.5YR6/4にぶい橙	波頂部	(外) (内)
SB-03 14-17	深鉢 縄文	口径 残高 3.0 底径 口縁一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR4/2灰褐		(外) (内)
SB-03 14-18	深鉢 縄文	口径 残高 4.6 底径 口縁一部	胎；礫、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6明褐 7.5YR3/1黒褐 (内)7.5YR5/6明褐 7.5YR3/1黒褐		(外) (内)
SB-03 14-19	深鉢 縄文	口径 残高 4.3 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/8黄橙 (内)10YR8/2灰白		(外)斜線文を施す (内)
SB-03 14-20	深鉢 縄文	口径 残高 5.3 底径 胴部一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)7.5YR6/8橙		(外)沈線文 (内)

第7表 出土土器観察表(4)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
SB-03 14-21	深鉢 縄文	口径 残高 7.0 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/8明赤褐 (内)5YR6/8橙		(外)沈線による文様を 施す (内)
SB-03 14-21	深鉢 縄文	口径 残高 6.9 底径 胴部一部	胎；礫、雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐		(外) (内)
SB-03 14-23	深鉢 縄文	口径 残高 4.5 底径 突起部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)		(外) (内)
SB-03 14-24	深鉢 縄文	口径 残高 4.3 底径 突起部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6橙 5YR4/2灰褐 (内)		(外) (内)
SB-03 14-25	深鉢 縄文	口径 残高 9.5 底径 口縁一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4にぶい赤褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐		(外) (内)
SB-03 14-26	深鉢 縄文	口径 残高 7.5 底径 把手一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/6橙		(外) (内)
SB-03 14-27	深鉢 縄文	口径 残高 7.0 底径 把手一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR5/6明赤褐		(外) (内)磨き
SB-03 14-28	深鉢 縄文	口径 残高 9.0 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR5/3にぶい褐		(外)口縁部に連続して 押圧した突帯が巡 る (内)削り
SB-03 14-29	深鉢 縄文	口径 残高 4.3 底径 胴部一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/6橙		(外)連続して突帯が巡 る (内)
SB-03 14-30	深鉢 縄文	口径 残高 6.5 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6橙 (内)10YR7/6明黄褐		(外)沈線による文様を 施す (内)
SB-03 14-31	深鉢 縄文	口径 残高 3.2 底径 胴部一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙		(外)沈線の区画に縄文 を施す (内)
SB-03 14-32	深鉢 縄文	口径 残高 8.3 底径 口縁一部	胎；礫、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙		(外) (内)

第8表 出土土器観察表(5)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
SB-03 14-33	深鉢 縄文	口径 残高 6.0 底径 口縁一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 5YR4/2灰褐 (内)	突起部	(外)爪型の刺突文を施す (内)
SB-04 15-1	深鉢 縄文	口径 残高 9.7 底径 口縁一部	胎；粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4にぶい橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外)口縁部をめぐる突 帯より、垂下する 隆帯で胴部を分割 し、その区画内に 縄文を施文する (内)削り
SB-04 15-2	深鉢 縄文	口径 残高 16.0 底径 口～胴部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR5/6明赤褐	口縁部に 把手を有 する 粘土帯積 み上げ	(外)沈線で区画しその 中を縄文を施文す る (内)
SB-04 15-3	深鉢 縄文	口径 残高 13.1 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/8明赤褐 (内)5YR5/6明赤褐		(外)隆帯で区画し、R L縄文を施文する (内)
SB-04 15-4	深鉢 縄文	口径 残高 11.7 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4にぶい褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐		(外)隆帯で区画し、R L縄文を施文する (内)
SB-04 15-5	深鉢 縄文	口径 残高 5.9 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3褐 (内)7.5YR4/4褐	波状口縁 を呈する	(外) (内)
SB-04 15-6	深鉢 縄文	口径 残高 6.9 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)5YR4/6赤褐	口縁部は 内側に屈 曲する	(外)口縁部に平行に隆 帯をめぐらし、胴 部に縄文を施文す る (内)
SB-04 15-7	深鉢 縄文	口径 残高 5.0 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR4/2灰褐	口縁部は わずかに 内側が肥 厚する	(外) (内)削り
SB-04 15-8	深鉢 縄文	口径 残高 7.1 底径 把手一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3にぶい赤褐 (内)5YR4/4にぶい赤褐	橋状把手	(外) (内)削り
SB-04 15-9	深鉢 縄文	口径 残高 3.0 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)10YR5/4にぶい黄褐	波状口縁 を呈する	(外)口縁部に平行に隆 帯をめぐらす (内)
SB-04 16-10	深鉢 縄文	口径 残高 16.9 底径 胴部一部	胎；礫を多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)2.5YR5/6明赤褐	粘土帯積 み上げ	(外)胴部を垂下隆帯で 分割し、その区画 内にRL縄文を施 文する (内)
SB-04 16-11	深鉢 縄文	口径 残高 9.2 底径 胴部一部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/2黒褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐		(外)隆帯により区画を 施し、その中にR L縄文を施文する (内)削り

第9表 出土土器観察表(6)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成 形 態	整 形 ほ か
SB-04 16-12	深鉢 縄文	口径 残高 10.9 底径 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3褐 (内)7.5YR4/3褐		(外) R L 縄文と隆帯で 文様を施す (内)
SB-04 16-13	深鉢 縄文	口径 残高 5.1 底径 胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4にぶい赤褐 (内)7.5YR5/3にぶい褐		(外)隆帯と縄文で文様 を施す (内)
SB-04 16-14	深鉢 縄文	口径 残高 4.8 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3褐 (内)7.5YR6/3にぶい褐		(外)沈線文で杉綾状の 文様を施す (内)
SB-04 16-15	深鉢 縄文	口径 残高 5.6 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/8明赤褐 (内)5YR4/4にぶい赤褐	胴部がゆるくくびれる	(外)沈線文を施す (内)
SB-04 16-16	深鉢 縄文	口径 残高 5.9 底径 胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)7.5YR6/3にぶい褐		(外) (内)
SB-04 16-17	深鉢 縄文	口径 残高 5.3 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6赤褐 (内)5YR3/2暗赤褐	突起部	(外) (内)
SB-04 16-18	深鉢 縄文	口径 残高 3.3 底径 把手一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/6明赤褐 (内)2.5YR5/6明赤褐		(外) (内)
SB-04 16-19	深鉢 縄文	口径 残高 4.5 底径 把手一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR3/1黒褐 (内)10YR3/1黒褐	橋状把手	(外) (内)
SB-04 16-20	深鉢 縄文	口径 残高 8.1 底径 把手部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6赤褐 (内)7.5YR4/6褐		(外) (内)
SB-04 16-21	深鉢 縄文	口径 残高 10.5 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3にぶい赤褐 (内)5YR4/6赤褐	突起部	(外) (内)削り
SB-04 16-22	深鉢 縄文	口径 残高 8.7 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3にぶい赤褐 (内)5YR5/6明赤褐	口縁部は内側に屈折する	(外)連続して押圧した 隆帯をめぐらす (内)
SB-04 16-23	深鉢 縄文	口径 残高 12.9 底径 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3にぶい褐 (内)7.5YR7/4にぶい橙		(外) L R 縄文を縦に施 文する 沈線文 (内)削り
SB-04 16-24	深鉢 縄文	口径 残高 9.3 底径 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3にぶい褐 (内)7.5YR7/3にぶい橙		(外)沈線文と R L 縄文 を施す (内)削り

第10表 出土土器観察表(7)

遺構No 函版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
SB-04 16-25	深鉢 縄文	口径 残高 3.8 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/6橙		(外)刺突文 (内)
SB-04 16-26	深鉢 縄文	口径 残高 8.2 底径 底部一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3褐 (内)5YR4/3にぶい赤	平底	(外)底部に網代痕を有す (内)
SK-01 17-1	深鉢 縄文	口径 残高 6.3 底径 口縁一部	胎；小礫微量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙		(外)隆起線文による文様 (内)
SK-01 17-2	深鉢 縄文	口径 残高 4.1 底径 口縁一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/3にぶい褐 (内)7.5YR7/4にぶい橙	波状口縁	(外)撫での後、沈線文で口縁部と胴部を区画し、胴部にRし縄文を施す。 (内)隆帯による装飾を口縁部に施す
SK-01 17-3	深鉢 縄文	口径 残高 7.0 底径 胴部一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4にぶい橙 (内)7.5YR7/6橙		(外)縦方向で区画し縄文を施す (内)
SK-01 17-4	深鉢 縄文	口径 残高 5.1 底径 胴部一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3浅黄橙 (内)5YR6/8橙		(外)縄文を施す (内)
SK-01 17-5	深鉢 縄文	口径 残高 5.8 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)5YR6/6橙		(外)隆帯による文様 (内)
SX-01 18-1	深鉢 縄文	口径 残高 4.3 底径 胴部一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)5Y6/2灰オリーブ (内)10YR6/4にぶい黄橙		(外)縄文(?)を施す (内)
SX-01 18-2	深鉢 縄文	口径 残高 4.9 底径 胴部一部	胎；小石少量含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6橙 (内)5YR7/6橙		(外)口縁に平行な沈線文で区画し、下部にLR縄文を施す (内)
SX-01 18-3	深鉢 縄文	口径 残高 3.0 底径 胴部一部	胎；小石、粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)2.5YR8/3淡黄 (内)2.5YR8/4淡黄		(外)縄文を施す (内)撫で
SX-01 18-4	深鉢 縄文	口径 残高 5.0 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR6/6明黄褐 (内)10YR5/4にぶい黄褐		(外)縄文を施す (内)
SX-01 18-5	深鉢 縄文	口径 残高 3.4 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8橙 (内)5YR3/3暗赤褐	環状の把手を付す	(外) (内)

第11表 出土土器観察表(8)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
埋甕址 19-1	深鉢 縄文	口径 残高 25.5 底径 口~胴部	胎；粗砂粒多量に含む(特に赤色粒) 焼；良好 色；(外)7.5YR8/6浅黄橙 (内)7.5YR8/6浅黄橙	波状口縁	(外)RL縄文を施した後、垂直方向の隆帯で区画する (内)撫で
埋甕址 19-2	深鉢 縄文	口径 残高 18.0 底径 胴~底部	胎；粗砂粒多量に含む(特に赤色粒) 焼；良好 色；(外)5YR6/6橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙		(外)縄文を施した後、垂直方向の隆帯を貼りつけ、刺突文等を加える (内)撫で
埋甕址 20-3	深鉢 縄文	口径 残高 19.5 底径 胴部一部	胎；礫、細砂粒微量に含む 焼；良好 色；(外)10YR8/2灰白 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外)隆起線文による文様を施す (内)撫で
埋甕址 20-4	深鉢 縄文	口径 残高 6.4 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/2黒褐 (内)7.5YR7/4にぶい橙		(外)隆起線文の文様を施す (内)
埋甕址 20-5	深鉢 縄文	口径 残高 4.9 底径 胴部一部	胎；細砂粒微量に含む 焼；良好 色；(外)10YR6/6赤橙 (内)5YR7/4にぶい橙		(外) (内)
埋甕址 20-6	深鉢 縄文	口径 残高 4.5 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)7.5YR5/1褐白		(外)沈線の文様を施す (内)
埋甕址 20-7	深鉢 縄文	口径 残高 5.5 底径 胴部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/2灰白 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外)隆帯線文の文様を施す (内)撫で
埋甕址 20-8	深鉢 縄文	口径 残高 7.4 底径 底~胴部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙	平底より 立上がり 外反して 胴部に至る	(外)撫で (内)撫で
N42E58 21-1	深鉢 縄文	口径 残高 9.8 底径 口縁一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3にぶい赤褐 (内)5YR5/6明赤褐		(外)口縁に平行な隆起線文により区画し、胴部に縄文を施す (内)
N42E58 21-2	深鉢 縄文	口径 残高 4.9 底径 口縁一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6明褐 (内)7.5YR4/2灰褐		(外)口縁に平行な隆起線文、そこから垂下する隆起線文により区画し、胴部区画には部分的にRL縄文を施す (内)
N42E57 21-3	深鉢 縄文	口径 残高 7.0 底径 口縁一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4にぶい赤褐 (内)5YR5/6明赤褐	波状口縁 内面に粘 土紐巻き 上げ痕が 明瞭に残る	(外)太い沈線と隆帯による文様 部分的にLR縄文を施す (内)

第12表 出土土器観察表(9)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器質	成形 形態	整形 ほか
N42E58 21-4	深鉢 縄文	口径 残高 8.8 底径 口縁一部	胎；粗砂粒微量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/8橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外)口縁に平行な沈線により区画し、口縁部は横磨き、胴部は縄文を施す (内)撫で
N44E54 21-5	深鉢 縄文	口径 残高 3.7 底径 口縁一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6橙 (内)10YR6/4にぶい黄橙	波状口縁肥厚させている	(外)口縁に平行な隆帯により区画し、胴部はLR縄文を施す (内)撫で
N42E58 21-6	深鉢 縄文	口径 残高 7.4 底径 胴部一部	胎；粗砂粒微量に含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8橙 (内)5YR4/6赤褐	内面に粘土巻き上げ痕が明瞭に残る	(外)撫で後口縁に直交する隆起線文により胴部を区画し部分的にRL縄文を施す (内)撫で
N42E58 22-7	深鉢 縄文	口径 残高 11.6 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)7.5YR6/6橙		(外)口縁に平行な隆起線文により胴部を区画し、一部にRL縄文を施す (内)撫で
N44E54 22-8	深鉢 縄文	口径 残高 7.5 底径 胴部一部	胎；粗砂粒微量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/4にぶい黄橙		(外)太い隆帯とLR縄文の組み合わせによる文様を施す。 (内)磨きに近い撫で
N42E57 22-9	深鉢 縄文	口径 残高 8.4 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6橙 (内)7.5YR6/6橙		(外)口縁に平行な凹線文で区画し、LR縄文を施した後垂直方向の凹線文で文様を施す (内)撫で
N42E58 22-10	深鉢 縄文	口径 残高 7.1 底径 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐		(外)鋸歯文様の隆起線文による文様を施す (内)撫で
N44E54 22-11	深鉢 縄文	口径 残高 4.4 底径 胴部一部	胎；粗砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/3暗褐 (内)5YR5/6明赤褐		(外)撫で後RL縄文を施し、沈線文で区画する (内)撫で
N44E54 22-12	深鉢 縄文	口径 残高 4.3 底径 胴部一部	胎；粗砂粒微量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/3にぶい褐 (内)7.5YR6/6橙		(外)短い沈線文を乱雑に施す (内)
N42E58 22-13	深鉢 縄文	口径 残高 4.7 底径 底部一部	胎；粗砂粒多量に含む(特に赤色粒多い) 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	底部粘土板の上に粘土帯を積み上げている	(外)撫で 無文 (内)撫で
N42E58 22-14	深鉢 縄文	口径 残高 18.5 底径 口～胴部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4にぶい赤褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐	丸みのある胴部より緩やかにすぼまって口縁部に至る	(外)口縁部をめぐる突帯より隆帯が垂下して胴部を分割するLR縄文を縦に施す (内)

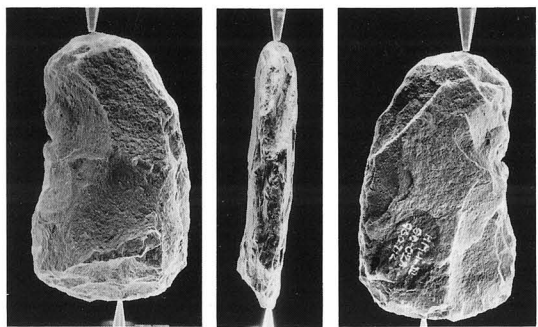
第13表 出土土器観察表 (10)

遺構No 図版No	器種 種類	法残 量存	器 質	成形 形態	整形 ほか
N42E58 22-15	深鉢 縄文	口径 残高 12.5 底径 口縁一部	胎；礫、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR5/6明赤褐 5YR4/2灰褐		(外)口縁部に平行な沈 線をめぐらし、R L縄文を施す (内)
N44E58 22-16	深鉢 縄文	口径 残高 5.5 底径 口縁一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6明褐 7.5YR4/3褐 (内)7.5YR3/2黒褐		(外)沈線とLR縄文の 文様を施す (内)横位の削り
N45E54 22-17	浅鉢 縄文	口径 残高 4.5 底径 口縁一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8橙 (内)5YR6/8橙	口縁部は 屈曲して 立ち上 がる	(外)口縁部に2列に連 続刺突文を施す (内)
N42E58 22-18	浅鉢 縄文	口径 残高 3.7 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6明褐 (内)7.5YR4/6褐	口縁部は 屈曲して 立ち上 がり、先 端で外 傾する	(外) (内)磨き
N42E58 22-19	深鉢 縄文	口径 残高 5.0 底径 胴部一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/6明赤褐 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外)渦巻隆線文 (内)
N45E54 22-20	深鉢 縄文	口径 残高 5.5 底径 把手部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4にぶい橙 (内)		(外)沈線とLR縄文の 文様を施す (内)
N42E58 23-21	深鉢 縄文	口径 残高 10.0 底径 把手部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4褐 (内)7.5YR4/4褐		(外)LR縄文を施す (内)
N44E54 23-22	深鉢 縄文	口径 残高 11.5 底径 把手部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR4/2灰褐		(外)RL縄文を施文す る (内)
N42E58 22-23	注口 土器 縄文	口径 残高 4.0 底径 注口部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/4にぶい橙		(外) (内)
N45E49 23-24	深鉢 縄文	口径 残高 3.5 底径 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙 (内)7.5YR4/2灰褐		(外)[8]字状貼付文を 施す (内)
N42E58 23-25	深鉢 縄文	口径 残高 14.0 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR5/6明赤褐	丸みのあ る胴部よ り外反し て口縁部 に至る	(外)口縁部は無文帯 隆帯と沈線とLR 縄文の文様を施す (内)削り
包含層 出土 23-26	深鉢 縄文	口径 残高 8.0 底径 口縁一部	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 (内)5YR4/6赤褐	口縁部は 内側にわ ずかに肥 厚する	(外)隆帯とLR縄文の 文様を施す (内)

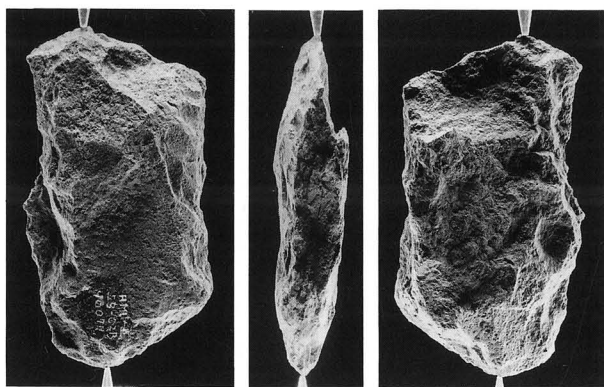
第14表 出土土器観察表 (11)

遺構No 図版No	器種 種類	法 残	量 存	器 質	成 形	形 態	整 形 ほ か
包含層 出土 23-27	深鉢 縄文	口径 残高 底径 口縁一部	7.0	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6赤褐 5YR4/3にぶい赤褐 (内)5YR5/3にぶい赤褐	波状口縁 を呈する		(外)隆帯と縄文の文様 を施す (内)
包含層 出土 23-28	深鉢 縄文	口径 残高 底径 口縁一部	5.0	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明褐 (内)5YR5/6明褐			(外) (内)
包含層 出土 23-29	深鉢 縄文	口径 残高 底径 口縁一部	5.9	胎；細砂粒少量含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/4にぶい赤褐 (内)5YR5/6明赤褐	口辺に面 取り		(外)磨き (内)撫で
包含層 出土 23-30	深鉢 縄文	口径 残高 底径 底部一部	4.0	胎；雲母、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/8赤褐 (内)5YR4/3にぶい赤褐	平底		(外) (内)
包含層 出土 23-31	深鉢 縄文	口径 残高 底径 突起部	5.3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐 5YR2/1黒褐 (内)			(外) (内)
包含層 出土 23-32	深鉢 縄文	口径 残高 底径 胴部一部	7.2	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6橙 (内)7.5YR6/6橙			(外)沈線と縄文の文様 を施す (内)
包含層 出土 23-33	深鉢 縄文	口径 残高 底径 口縁一部	6.0	胎；礫、石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR4/1褐灰 (内)7.5YR6/6橙	波状口縁 を呈する		(外) (内)
包含層 出土 23-34	浅鉢 縄文	口径 残高 底径 口縁一部	3.8	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4にぶい赤褐 (内)5YR4/4にぶい赤褐	内側に支 を有する		(外)沈線文を施す (内)
包含層 出土 23-35	ミニ チュ ア 縄文	口径 残高 底径 胴～底部	6.5 3.0	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 (内)7.5YR5/4にぶい褐	平底より 外反ぎみ に立ち上 がり胴部 に移行す る		(外) (内)
包含層 出土 23-36	椀 土師	口径 残高 底径 坏部1/3	13.2 4.3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4にぶい橙 (内)5YR6/4にぶい橙 5YR4/1褐灰	付高台		(外)轆轤による撫で (内)轆轤による撫で
N42E58 23-37	椀 土師	口径 残高 裾径 坏部一部 高台1/3	15.0 6.8 8.0	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6橙 (内)5YR7/4にぶい橙	付高台		(外)轆轤による撫で (内)
N46E56 23-38	坏 陶器	口径 残高 底径 底部高台	1.5 4.6	胎；粗砂粒、鉄分を多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰			(外)釉薬を施す (内)釉薬を施す 高台に釉薬を施す

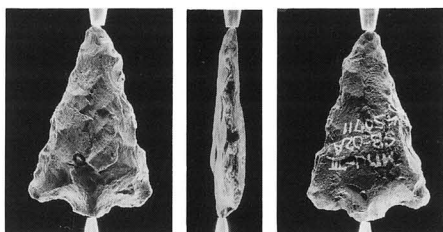
第15表 出土土器観察表 (12)



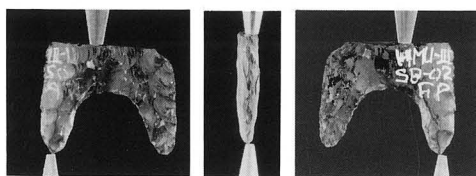
1. SB-02 X1/2



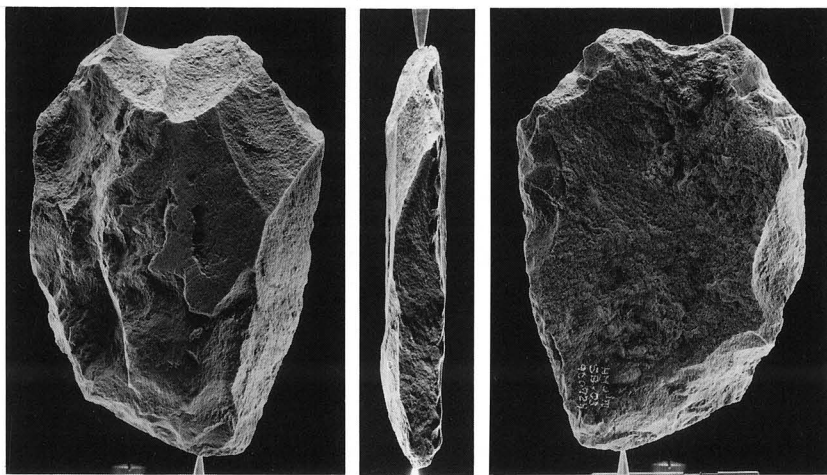
2. SB-02 X1/2



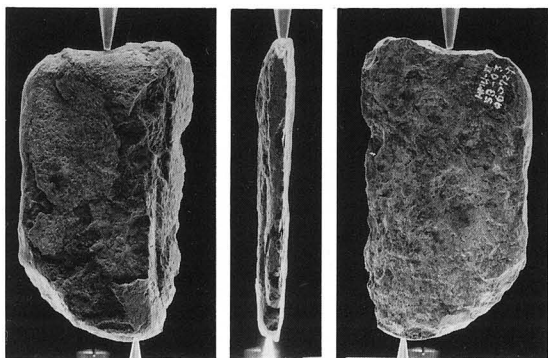
3. SB-02 X1



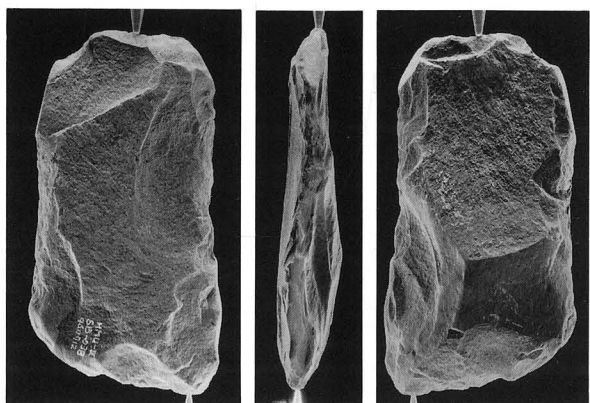
4. SB-02 X1



5. SB-03 X1/2

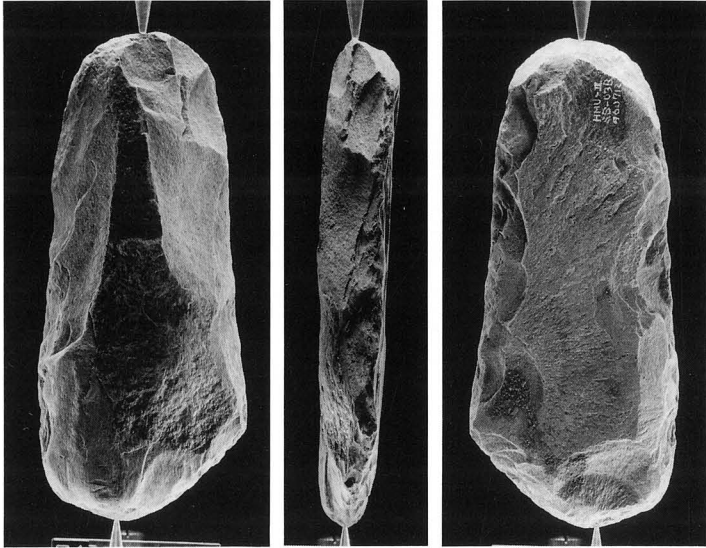


6. SB-03 X1/2

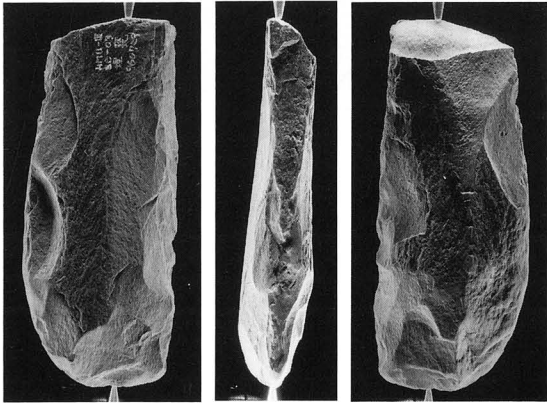


7. SB-03 X1/2

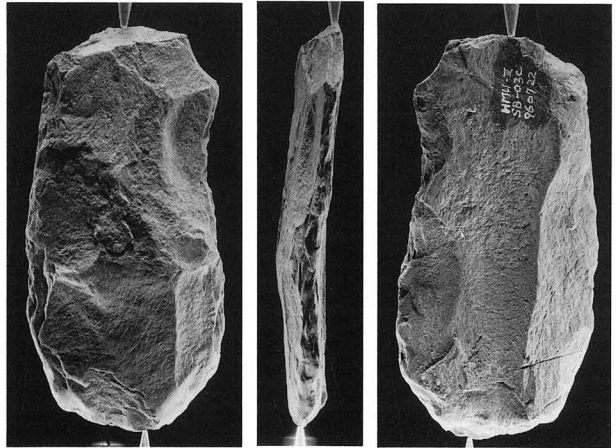
出土石器写真 (1)



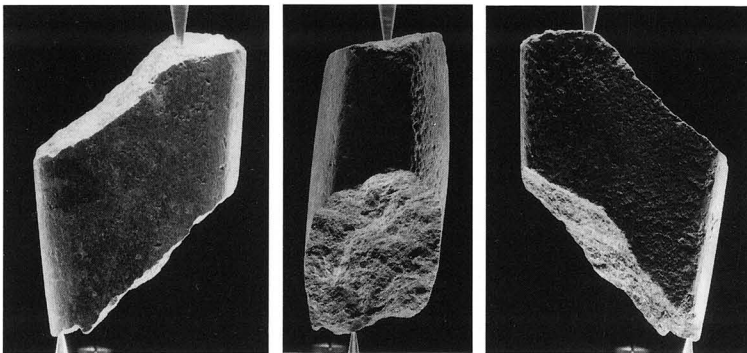
8. SB-03 X1/2



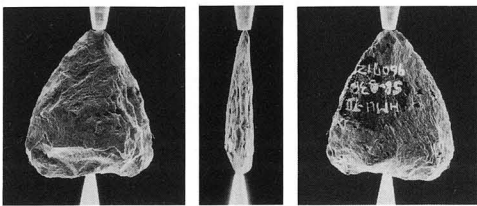
9. SB-03 X1/2



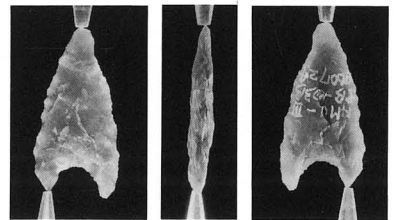
10. SB-03 X1/2



11. SB-03 X 1/2

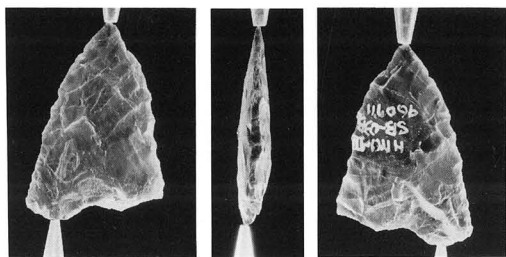


12. SB-03 X1

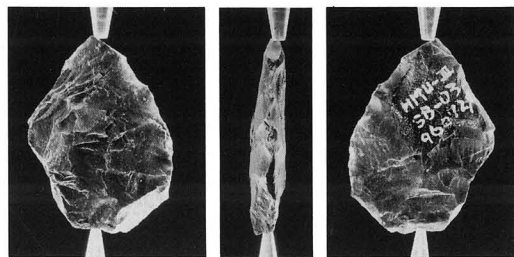


13. SB-03 X1

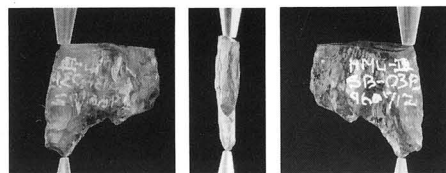
出土石器写真 (2)



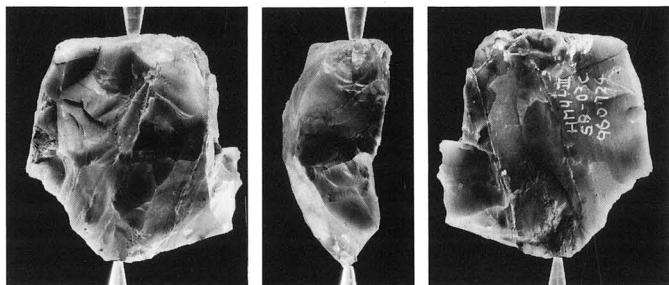
14. SB-03 X1



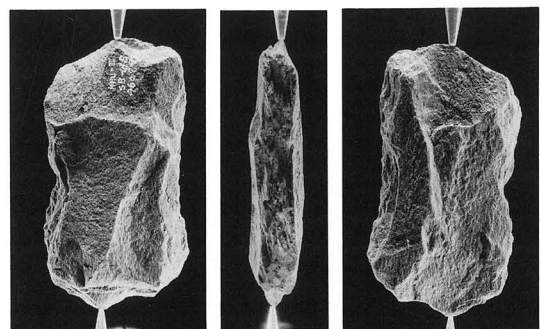
15. SB-03 X1



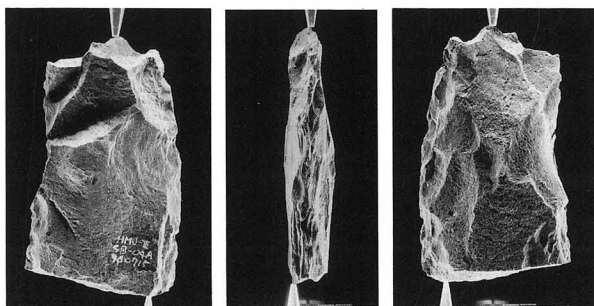
16. SB-03 X1



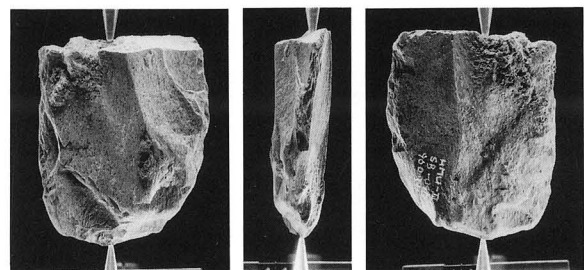
17. SB-03 X1



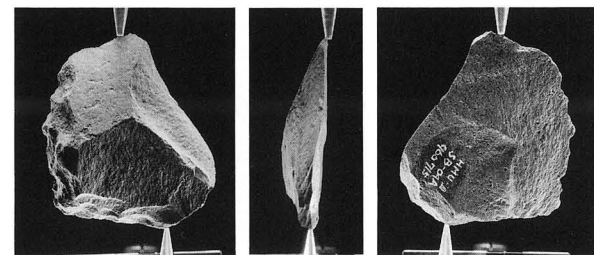
18. SB-04 X1/2



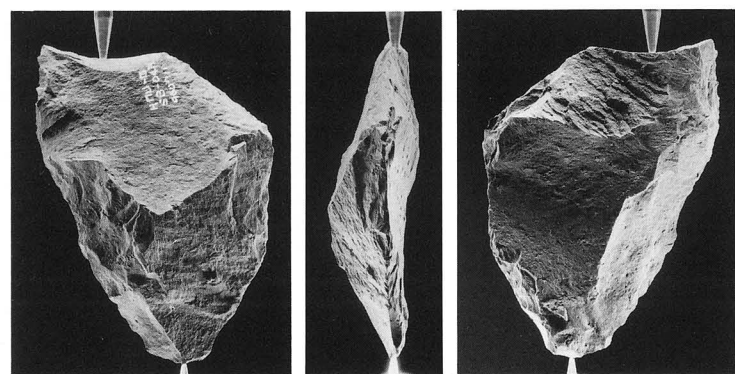
19. SB-04 X1/2



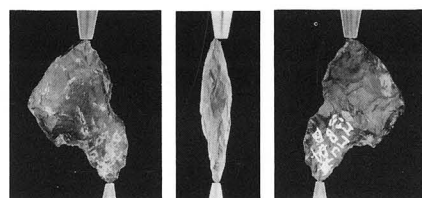
20. SB-04 X1/2



21. SB-04 X1/2

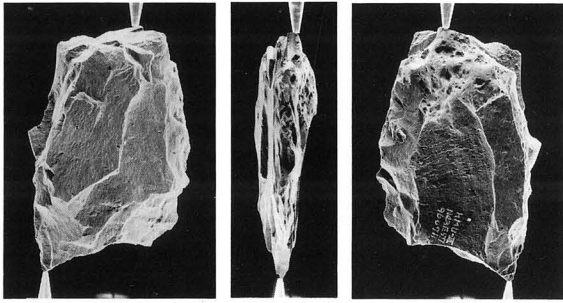


22. SB-04 X1/2

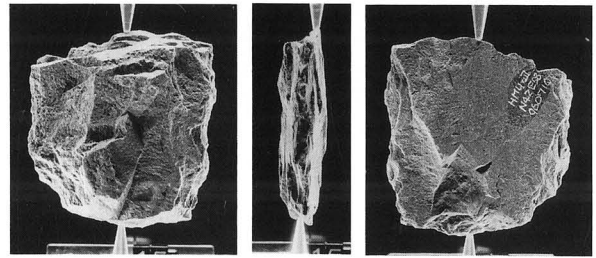


23. SB-04 X1

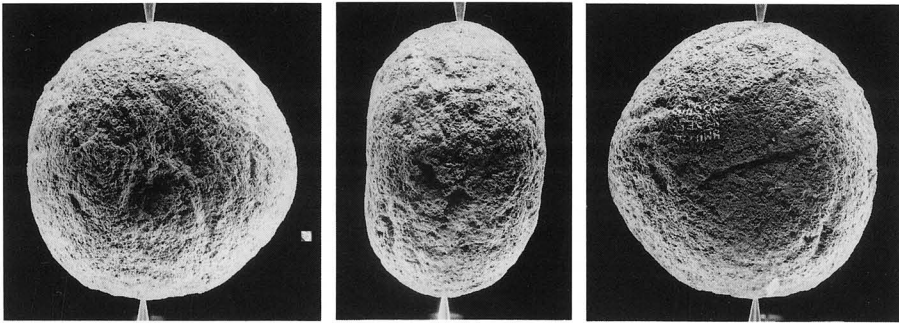
出土石器写真 (3)



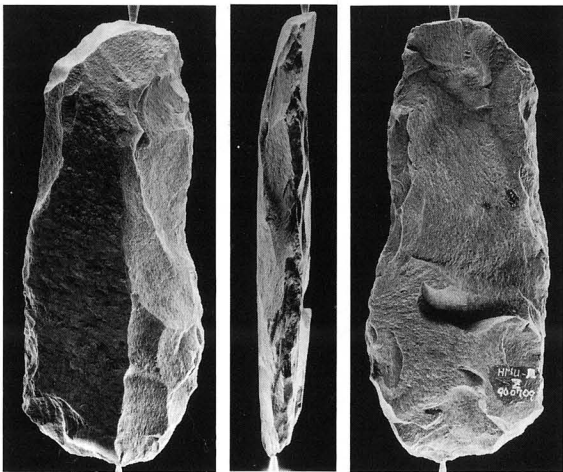
24. N43 E57 ×1/2



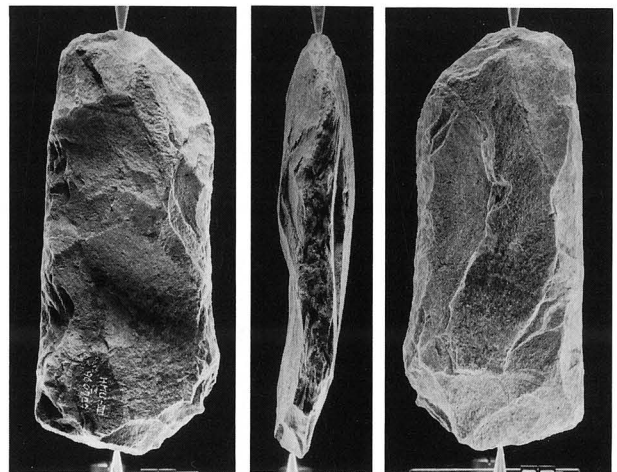
25. N42 E58 ×1/2



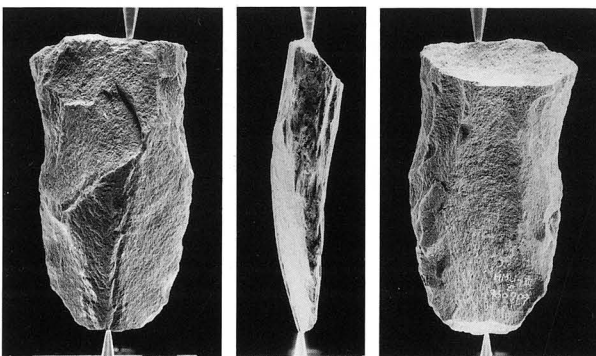
26. N43 E56 ×1/2



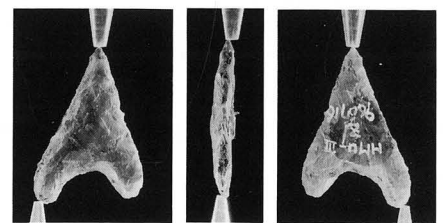
27. 包含層出土 ×1/2



28. 包含層出土 ×1/2

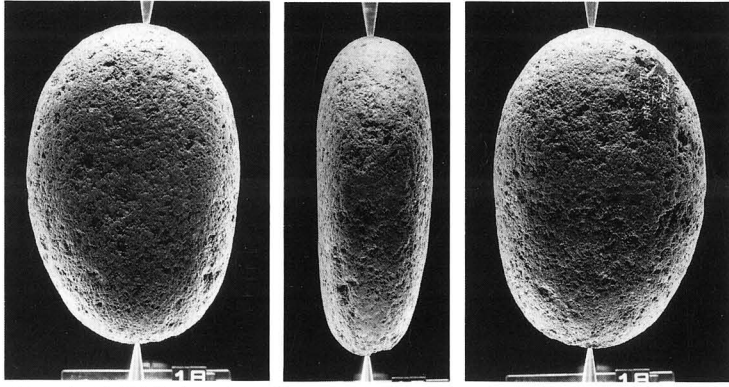


29. 包含層出土 ×1/2

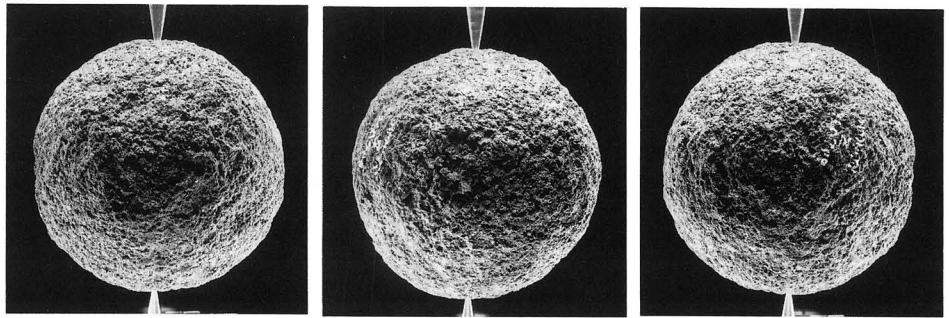


30. 包含層出土 ×1

出土石器写真(4)



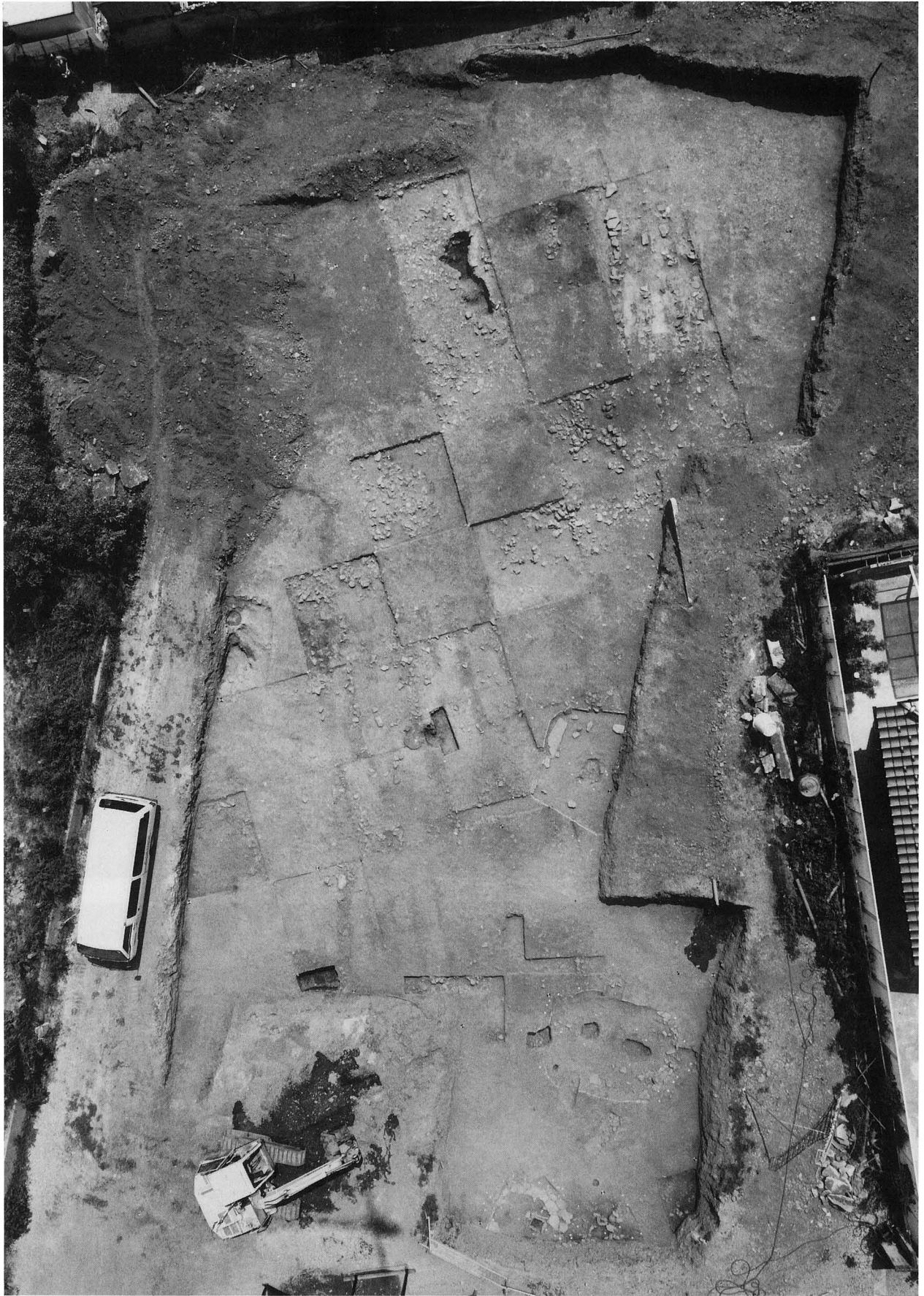
31. 包含層出土 ×1/2



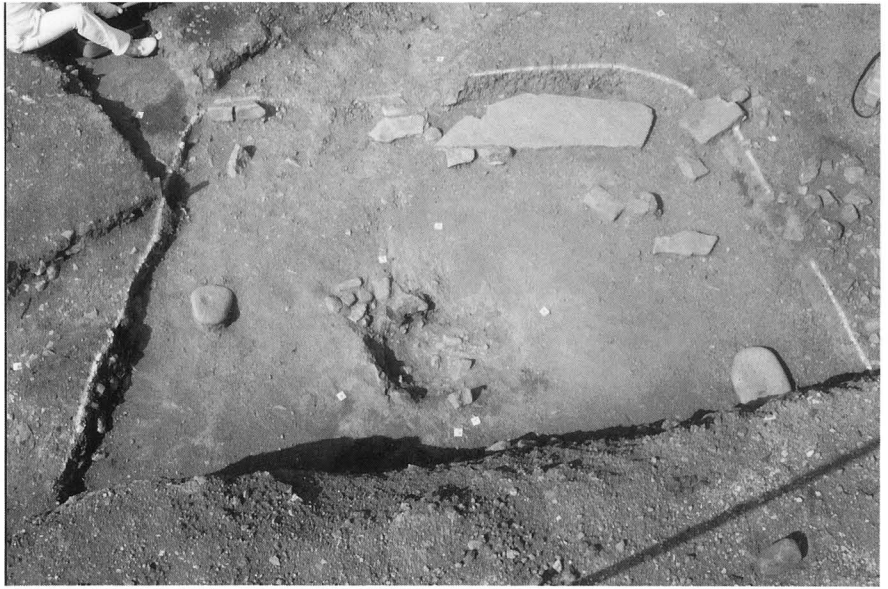
32. 包含層出土 ×1/2

写真番号	遺構番号	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	材質	備考
1	SB-02	打製石斧	7.1	4.1	1.3	49.3	ひん岩	
2	SB-02	打製石斧	8.8	4.8	2.0	91.5	安山岩	
3	SB-02	打製石鏃	2.5	1.7	0.5	1.5	石英安山岩	
4	SB-02	打製石鏃	残 1.5	1.8	0.3	0.7	黒曜石	一部欠損
5	SB-03	打製石斧	11.1	7.6	1.7	173.0	安山岩	
6	SB-03	打製石斧	7.9	4.6	1.1	40.1	頁岩	
7	SB-03	打製石斧	9.5	5.1	1.7	95.4	安山岩	
8	SB-03	打製石斧	12.9	5.5	2.0	183.0	ひん岩	
9	SB-03	打製石斧	9.7	4.0	2.0	95.5	ひん岩	
10	SB-03	打製石斧	9.5	5.2	1.3	94.8	ひん岩	
11	SB-03	磨製石斧	残 8.0	5.5	3.6	225.0	閃緑岩	一部欠損
12	SB-03	打製石鏃	2.0	1.7	0.4	1.3	頁岩	
13	SB-03	打製石鏃	2.3	1.2	0.4	0.8	玉髄	
14	SB-03	打製石鏃	2.6	1.8	0.5	2.0	チャート	一部欠損
15	SB-03	打製石鏃	2.6	2.0	0.5	2.6	黒曜石	一部欠損
16	SB-03	打製石鏃	残 1.5	残 1.6	0.3	0.8	黒曜石	一部欠損
17	SB-03	周刃石器	3.0	3.0	1.3	11.5	チャート	一部欠損
18	SB-04	打製石斧	7.2	3.8	1.5	48.0	安山岩	
19	SB-04	打製石斧	6.7	4.0	1.4	43.5	安山岩	
20	SB-04	打製石斧	残 5.5	4.5	1.5	48.0	流紋岩 (ムラサメイシ)	一部欠損
21	SB-04	打製石斧	5.1	4.3	1.2	26.7	安山岩	
22	SB-04	打製石斧	8.5	6.2	2.1	99.7	安山岩	
23	SB-04	打製石鏃	1.9	残 1.4	0.4	0.8	黒曜石	一部欠損
24	N43E57	打製石斧	6.3	4.3	1.6	45.4	玄武岩	
25	N42E58	打製石斧	5.2	5.0	1.3	38.3	流紋岩	
26	N43E56	すり石	7.2	7.1	4.3	300.0	安山岩	
27	包含層出土	打製石斧	11.5	4.7	1.5	94.1	ひん岩	
28	包含層出土	打製石斧	11.2	4.7	2.1	131.0	ひん岩	
29	包含層出土	打製石斧	7.7	4.2	1.7	65.4	安山岩	
30	包含層出土	打製石鏃	2.0	1.5	0.3	0.7	玉髄	
31	包含層出土	すり石	8.5	5.6	3.1	230.0	安山岩	
32	包含層出土	すり石	6.6	6.6	6.6	327.0	安山岩	

第16表 出土石器観察表



航空写真 頁上が東



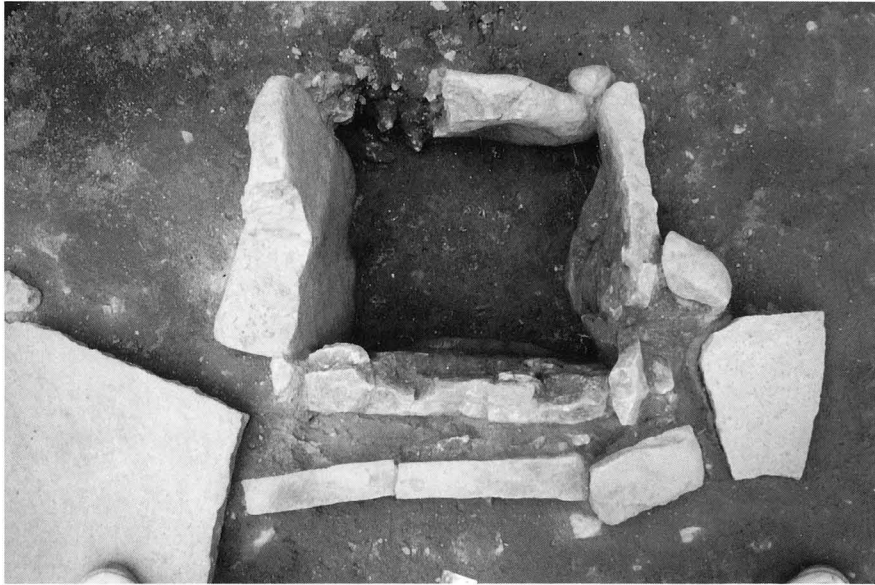
SB-02 (北から)



SB-03 (南から)



SB-04 (南から)



SB-04 炉 (東から)



SX-01 (西から)



埋甕址 (西から)



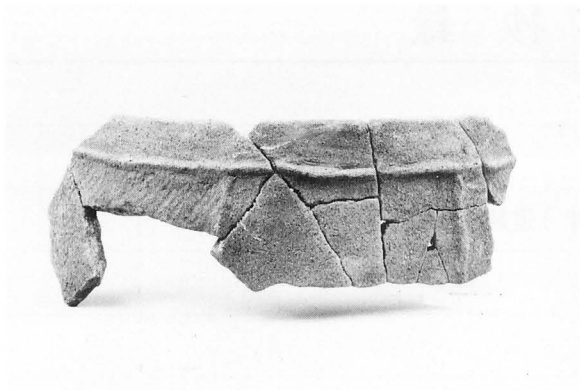
重機による表土剥
～運搬



表土剥
グリット掘下
遺構掘上



遺構清掃
実測



SB-02出土土器 第11図-1



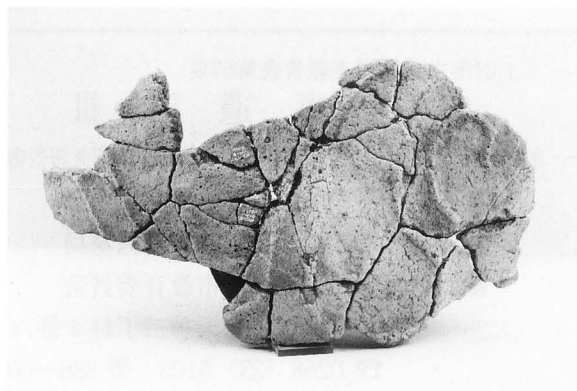
SB-02出土土器 第11図-2



埋甕 第19図-1



埋甕 第19図-2



埋甕 第19図-3

報告書抄録

ふりがな	はちまんうらいせき さん
書名	八幡裏遺跡Ⅲ
副書名	国立長野病院看護婦宿舎建設に伴う遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第67集
編著者名	中沢徳士
編集機関	上田市教育委員会
所在地	長野県上田市天神二丁目4番74号 (☎386-0025)
発行年月日	1998年3月25日
(ふりがな) 所収遺跡名	はちまんうらいせき 八幡裏遺跡
(ふりがな) 所在地	ながのけんうえだしみどりがおか 長野県上田市緑ヶ丘一丁目27番21号
コード(市町村・遺跡番号)	20203・64
北緯・東経	138° 15' 3" ・36° 24' 6"
調査期間	1996年7月1日～7月29日
調査面積	800m ²
調査原因	国立長野病院看護婦宿舎建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡裏遺跡	集落址	縄文時代	竪穴住居址3 土壇1 集石1	縄文土器 石鏃 打製石斧	

上田市文化財調査報告書第67集

八幡裏遺跡Ⅲ

国立長野病院看護婦宿舎建設に伴う遺跡発掘調査報告書

発行日 平成10年3月25日

発行 厚生省関東信越地方医務局

編集 上田市・上田市教育委員会

長野県上田市天神二丁目4番74号

☎ 0268 (23) 5102 ☎ 386-0025

印刷 有限会社 アオヤギ印刷